

波賀生活圏の拠点づくりの考え方（提言）



平成 31 年 3 月

波賀生活圏の拠点づくり検討委員会

もくじ

I	はじめに	2	IV	生活圏の拠点づくりに向けた基本方針と取組に対する提言	9
	1 提言の趣旨と目的			(1) 買い物場の確保・交通網の充実	
	2 他の計画との関連性			(2) 生涯学習や文化・芸術活動の推進	
	3 提言書の策定体制と経過			(3) 子育て・教育環境の充実	
				(4) スポーツ・健康づくりの推進	
II	波賀町域の概要	5	V	拠点施設の機能	13
	1 地域の概要			1 拠点施設周辺と既存施設の現状と方向性	
	2 人口動態			2 (仮称)波賀市民協働センターに向けた整備と今後の考え方	
III	波賀生活圏の将来像	7	VI	まとめ及び提言における条件	17
	1 生活圏の拠点				
	2 波賀町の魅力と課題		VII	取組のスケジュール(案)	18

I はじめに

1 提言の趣旨と目的

現在、我が国では東京への一極集中を背景に、地域の人口減少・少子高齢化が深刻な事態を迎えている。そのような中、宍粟市では平成27年12月に「森林（もり）から創（はじ）まる地域創生」をテーマとして、宍粟市地域創生総合戦略を策定し、さらに平成29年11月には3つのアクションプランを策定して、様々な人口減少対策の具体化を進めている。

その中の一つに「森林から創まる生活圏の拠点づくり」があり、これは、町域を一つの“生活圏”と捉え、その中に、生活に必要な様々な機能が集まった“拠点”をつくるとともに、公共交通や情報通信などのネットワークを駆使して、将来にわたって地域の利便性や賑わいを確保し、さらには地域活力の向上を図ることを目的として、取組を進めるものである。

この提言は、その更なる具体化に向けた一歩として、波賀町域での「生活圏の拠点づくり」に関する具体的な方策を提言し、市政に反映させることを目的としている。

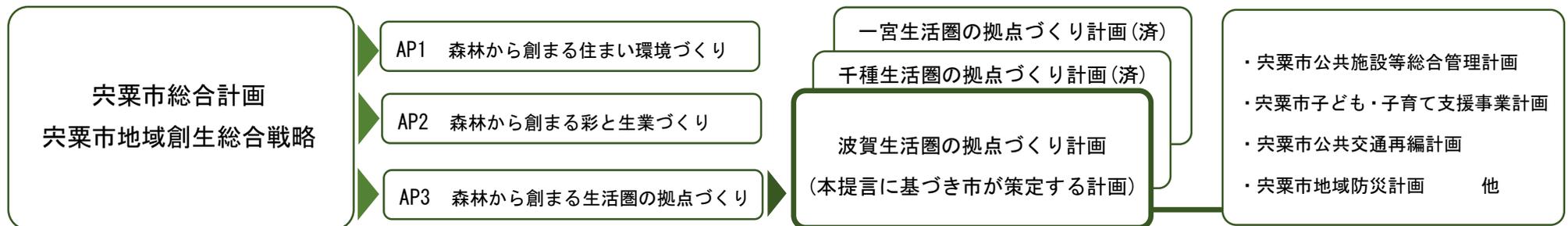
■ 宍粟市生活圏ネットワークのイメージ



出典：宍粟市総合計画

2 他の計画との関連性

この提言と他の宍粟市の各種計画の関連性は下図のとおりである。



■ 関連する計画等

名称	期間	目的/概要
宍粟市総合計画	H28-37	宍粟市の最上位計画として、市政全般にわたる施策を体系的・網羅的に整理。現行の第2次総合計画では特に、人口減少対策を最重要課題として位置づけると共に、将来の地域構造として生活圏ネットワークの構築を明記。
宍粟市地域創生総合戦略	H27-31	「森林（もり）から創（はじ）まる地域創生」をテーマに掲げ、人口減少対策の取組を【住む】【働く】【生み育てる】【まちの魅力】の4つの観点から整理。選択と集中により取組の更なる重点化と加速化を図るため、以下の3つのアクションプランを策定。
AP1 森林から創まる 住まい環境づくり	H29-31	人口流出の抑制に向けたダム機能の強化を念頭に、若者。子育て世代にとって魅力ある住環境・子育て環境の整備を促進する。
AP2 森林から創まる 彩と生業づくり	H29-31	地域の特性に合った農林漁業や商工業の営み(生業)によって、地域の風景(彩)の価値を高め、それらが地域の中で新たな生業に繋がってゆく好循環を生み出し、“日本一の風景街道”を創造する。
AP3 森林から創まる 生活圏の拠点づくり	H29-31	将来的な人口減少が見込まれる中であっても、地域の中で生活の利便性や賑わいを確保し、さらには地域活力の向上を図ることを目的として、“生活圏の拠点づくり”を行う。この計画の根幹を成す考え方。
宍粟市公共施設等総合管理計画	H28-37	将来に向けて安定した行政サービスを提供するための、市役所や市民局、生涯学習センターなどの公共施設等の整備に関する基本方針。公共施設の管理目標として平成37年までの9年間で公共施設の延べ床面積9%削減を設定。
宍粟市子ども・子育て支援事業計画	H27-31	「子ども・子育て支援法」に基づき、一人ひとりの子どもが健やかに育ち、社会の一員として成長することの出来る環境を整備する。
宍粟市地域福祉計画	H27-31	障がいの有無や年齢、性別などにかかわらず、誰もが住み慣れた地域の中で心豊かに安心して暮らせる仕組みをつくり、持続させていくための計画。
宍粟市公共交通再編計画	H27-	地域の誰もがいつまでも安心して暮らしていけること、高齢者や通勤通学者の移動手段の確保、さらには観光面での利用等を目的とした公共交通の再編計画。
宍粟市地域防災計画	H24-	宍粟市域の災害対策全般に関し、迅速な災害応急対応を図り、住民の生命、身体及び財産を災害から保護するとともに、住民が安心して暮らせる災害に強いまちづくりに資する。

3 提言書の策定体制と経過

この提言書の策定に際しては地域の代表や施設利用者、子育て世代の代表や PTA、公募など、多様な主体の参画を得て「波賀生活圏の拠点づくり検討委員会」（以下、「検討委員会」という。）を設置し、計 7 回にわたって活発な意見交換を重ねてきた。今後、拠点施設を具体化していくにあたっては、任意の参加となるが、検討委員会の委員と市との間で引き続き意見交換する場を設けられたい。なお、検討委員会の議事については資料（会議録）編（19 ページ以降）を確認されたい。

■ 波賀生活圏の拠点づくり検討委員会 開催概要

会 議	開 催 日	協 議 内 容
第 1 回 検討委員会	平成 30 年 8 月 22 日	検討委員会の目的、地域の人口動態、地域創生総合戦略と生活圏ネットワーク構想について説明 波賀町の「魅力」と「より魅力ある地域にするための課題」について意見交換
第 2 回 検討委員会	9 月 27 日	「買い物・交通」、「子育て・教育」、「生きがい・趣味」、「スポーツ」の 4 つの区分に分けて、生活の利便性の向上・賑わいの創出につながる方策と拠点について意見交換
第 3 回 検討委員会	10 月 25 日	「買い物・交通」、「子育て・教育」、「生きがい・趣味」の拠点機能と場所について意見交換し、波賀市民局周辺を「買い物・交通」・「生きがい・趣味」の拠点にすることを確認
施設見学	11 月 13 日	メイプル福祉センター、波賀文化創造センターを施設見学
第 4 回 検討委員会	11 月 16 日	波賀市民局の施設見学後、市民センター波賀の機能について意見交換
第 5 回 検討委員会	12 月 17 日	「生きがい・趣味」の拠点の詳細について確認、「子育て・教育」の機能の詳細について意見交換
第 6 回 検討委員会	平成 31 年 1 月 29 日	「教育」について安賀周辺を拠点とすることを確認、「子育て」については波賀市民局周辺及び安賀を拠点とすることを確認、「スポーツ」について意見交換
第 7 回 検討委員会	3 月 12 日	これまでの議論を踏まえた波賀生活圏の拠点づくりの考え方（提言）のまとめ

Ⅱ 波賀町域の概要

■波賀町域の位置図

1 地域の概要

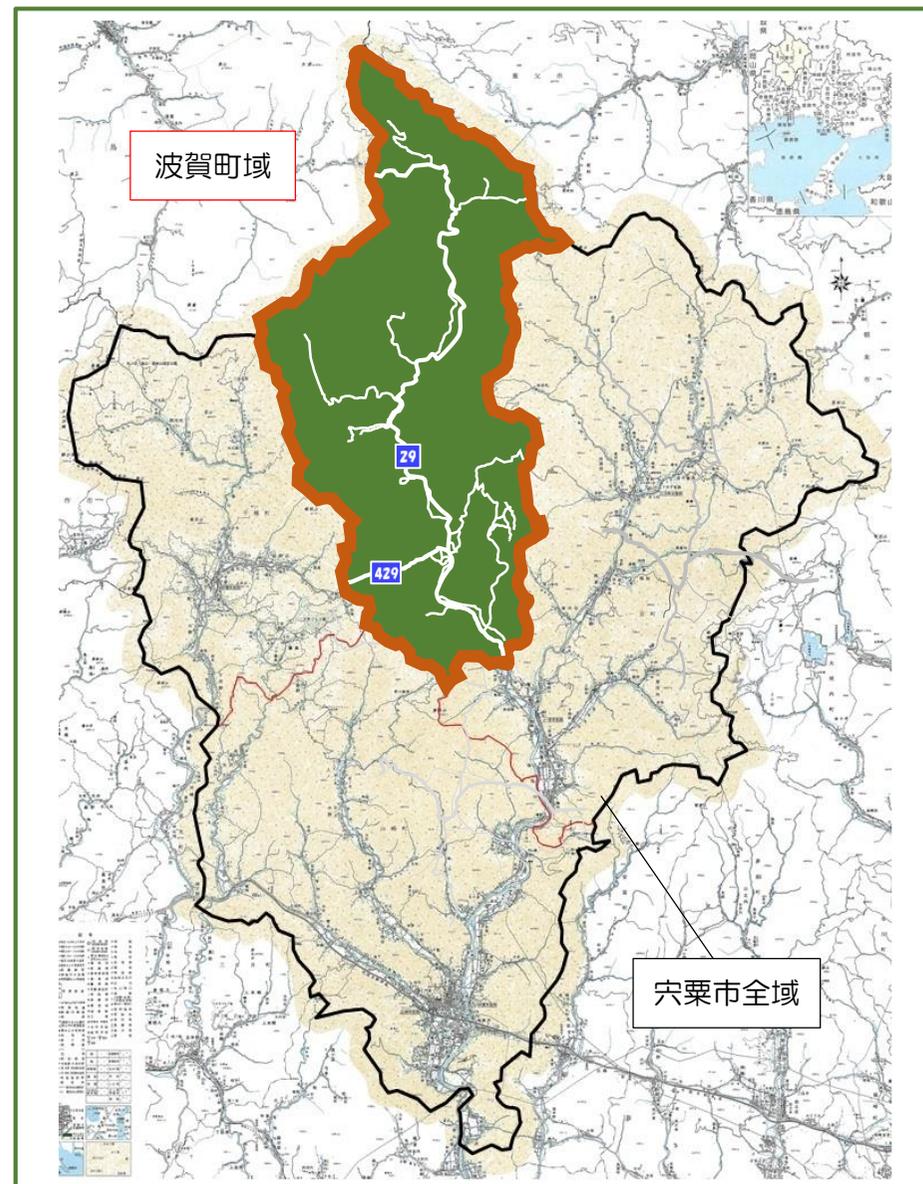
波賀町域は宍粟市の北部、中国山地の分水嶺域の山陽側に位置し、北は養父市・鳥取県に隣接している。まちの面積は 161.29 km²で、周囲は、氷ノ山三ノ丸、赤谷山、東山など 1,000mを超える山々からなり、大森林地帯を形成している。まちの面積の 94%が山林、そのうち 60%が国定・県立自然公園と、豊かな自然に恵まれており、昭和 40 年頃までは林業が隆盛を誇り、国有林の搬出軌道として全国でも有数の規模を誇った「波賀森林鉄道」が走っていた。

町域の中央を揖保川の支流、引原川が南北に流れ、この引原川を中心に多くの小支流があり、渓谷、峡谷のすばらしい自然美を残している。また、引原川に沿うように姫路と鳥取を結ぶ国道 29 号が走っており、姫鳥線が開通するまでは瀬戸内と日本海を結ぶ主要街道のひとつとして賑わいを誇っていた。

町域の中心地には、森林（もり）の恵みを活かす「木のまち宣言」を受け建設された波賀市民局庁舎やメイプル福祉センターなどの木造公共施設があり、今も訪れる人々に安らぎやぬくもりといった癒しや感動を与える特徴的な施設となっている。

また、医療機関や教育施設、スポーツ施設などもゾーン分けて整備されたことで、一定の範囲にまとまって存在している。

さらに、町域には県内初の森林セラピー基地に認定された、赤西渓谷の森林セラピーロードや、全国でも数少ない 1,000mの常設コースを有する音水湖力又一競技場のほか、スキー場や温泉施設など、豊かな自然を生かした地域資源があり、宍粟市の交流人口を増やす大きな原動力になるとともに、地域の雇用の確保にも繋がっている。



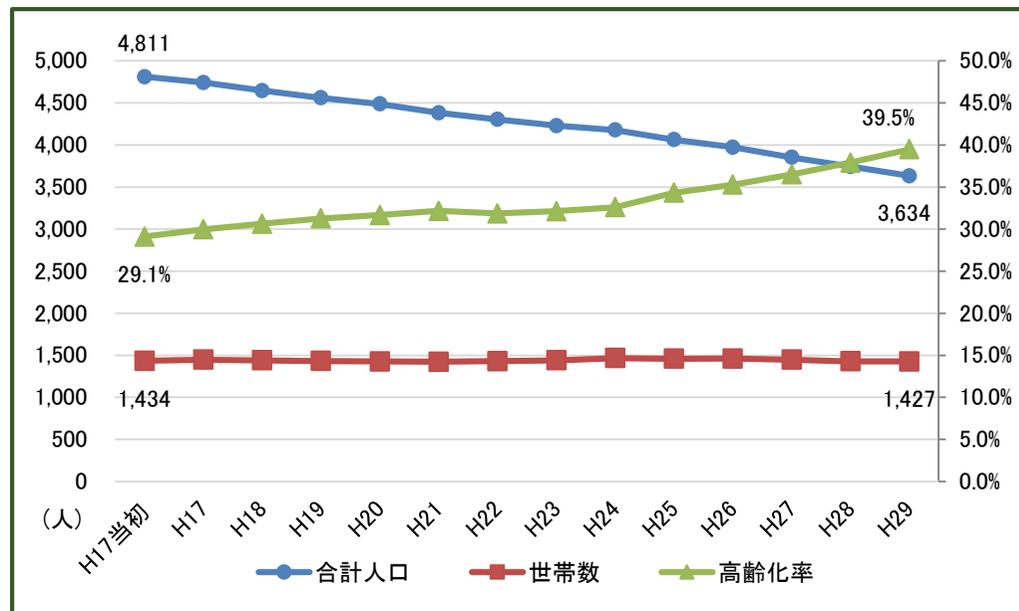
2 人口動態

波賀町域の人口は、昭和 32 年の波賀町誕生以降減少傾向にあり、最近のデータでは、平成 17 年 4 月の新市発足当初に 4,811 人であった住民基本台帳による人口は、平成 29 年度末には 3,634 人まで減少しており、この 12 年間で約 24%のマイナスとなっている。

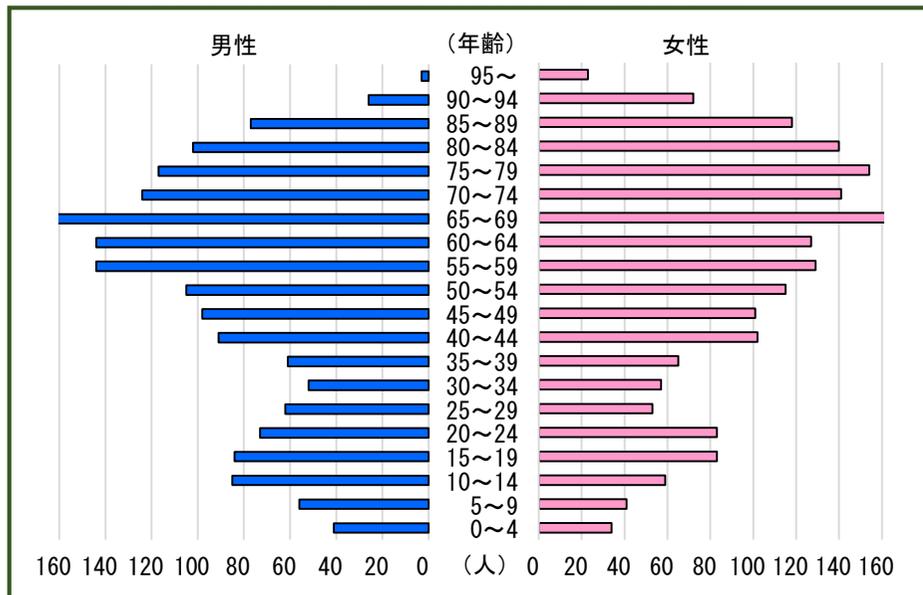
また、40 代以上に比べ 30 代までの人口が少なくなっていることから子どもの数が減少していると考えられる。また、65 歳以上の高齢者の割合は、平成 17 年当初から約 10%上昇し、39%を超えており、少子高齢化が進行している。【図表 1、2】

年度毎の動態としては自然動態、社会動態ともにマイナスが続いており、平均して毎年 100 人程度人口が減少している。社会減の影響もあるが、若者が減少している影響から出生数が少なく、高齢化の影響もあり自然減の影響も大きくなっている。【図表 3】

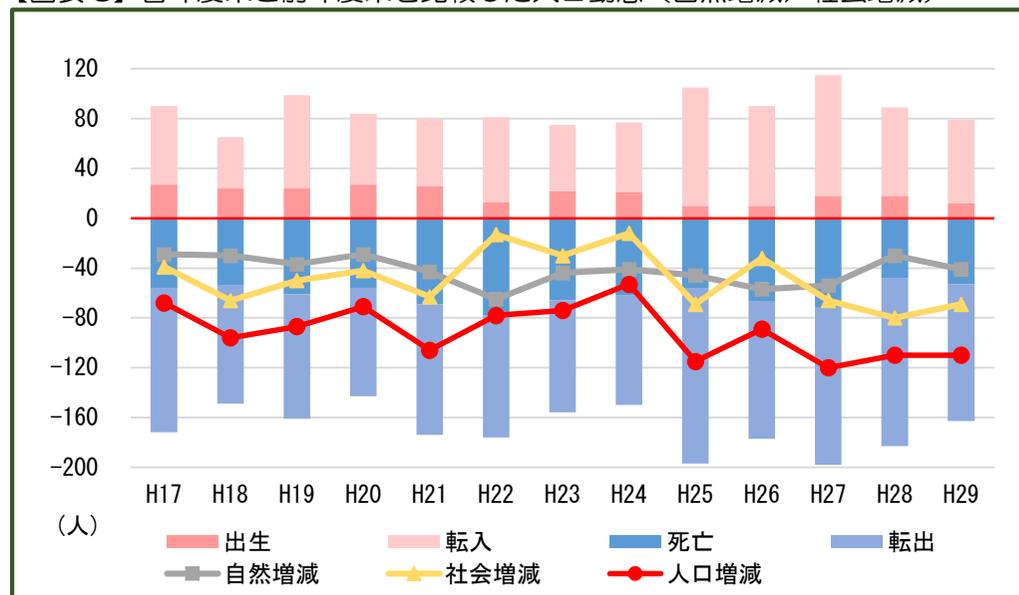
【図表 1】波賀町域の人口／世帯数／高齢化率の推移



【図表 2】町域の年代別人口構成（平成 31 年 1 月末時点）



【図表 3】各年度末と前年度末を比較した人口動態（自然増減／社会増減）



Ⅲ 波賀生活圏の将来像

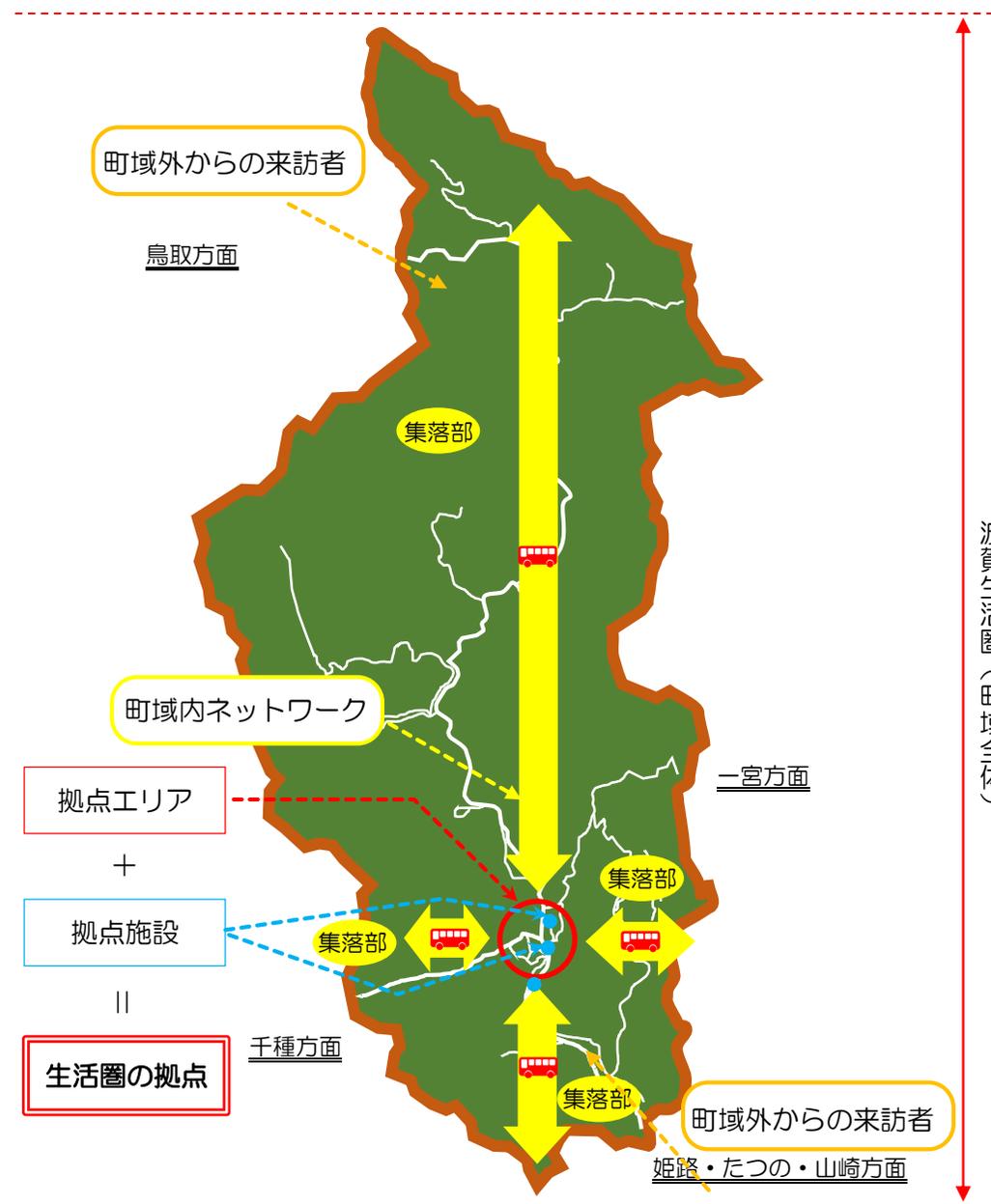
1 生活圏の拠点

「宍粟市総合計画/宍粟市地域創生総合戦略」では町域を一つの生活圏と捉え、市民局周辺を小売店舗や金融機関、医療機関、公共施設など日常生活に必要な機能を備えた「生活圏の拠点」として維持するとともに、「集落部」と「生活圏の拠点」を結ぶ公共交通、物流、情報のネットワーク化により、コンパクトなエリア内で日常生活に必要な機能が確保できる生活圏ネットワークの形成をめざすこととしている。

この考え方にに基づき、「波賀生活圏の拠点づくり」では、波賀町域全体を「波賀生活圏」と捉えるとともに、日常生活に必要な機能が一定の範囲に集積している波賀市民局及び安賀周辺を「拠点エリア」として位置づけた。また、老朽化が著しい市民センター波賀について、波賀市民局の空きスペースを活用しつつ、大ホールは波賀市民局に隣接して整備することで、防災拠点としての機能の強化や、現在の市民センター波賀の跡地に遊具が充実した公園を整備するなど、拠点エリアにおける賑わいの確保・創出を図り、多世代・多地域の人が交流する「生活圏の拠点」を形成することとする。

■ 地域を構成する用語の整理

- ①波賀生活圏 = 波賀町域全体
- ②拠点エリア = 波賀市民局及び安賀周辺を中心とする概ね 1km の範囲
- ③拠点施設 = 拠点エリアの中核となる施設
- ④生活圏の拠点 = 上記の②と③を合わせた機能
- ⑤集落部 = 拠点エリアの外にある居住地域



2 波賀町の魅力と課題

地域の「魅力」を活かし、地域の「課題」を克服していくことが、安心して住み続けられる地域づくりに繋がる。検討委員会におけるこれまでの意見交換では、地域の「魅力」と「より魅力ある地域にするための課題」として、次のような点が挙げられた。

■波賀町の魅力

検討委員会での意見	
温かい人柄・地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい人、魅力ある人が波賀には多い。 ・生活になじみやすい。 ・いろいろな趣味を持ってがんばっている人が多い。 ・波賀を訪れる人はリピーターが多く、みんなが波賀を好きになるというまちの印象があり、交流もできている。
特色があり、充実した既存施設	<ul style="list-style-type: none"> ・メイプルスタジアムは野球をする環境として有名である。
豊かな自然環境・観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然、観光の素材がある。
良好な子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かで子育てもゆったりとのびのびできる。

■波賀町をより魅力ある地域にするための課題

検討委員会での意見	
交通の不便	<ul style="list-style-type: none"> ・交通網が不便である。
買い物の不便	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物施設がない。 ・移動販売では買いたいものが買えないことがある。
高齢者の生きがいへの不安	<ul style="list-style-type: none"> ・市民センター波賀が老朽化しており手狭である。
若者の地域離れ(働く場の不足)	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場所が少なくなってしまうか不安である。
子育て・教育の選択肢の少なさ	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び場がない。 ・部活動やスポーツの選択肢が少ない。 ・部活動やスポーツなどには経験がある指導者が必要である。 ・塾が遠い。 ・学習の場がない。

IV 生活圏の拠点づくりに向けた基本方針と取組に対する提言

波賀町の魅力や課題を踏まえ、拠点の中で日常生活に必要な機能を維持していくとともに、拠点と集落とのネットワーク化を図り持続可能な生活圏を形成していくため、市においては、次の4つの方針（考え方）に基づき拠点づくりに向けた取組を進められたい。

（1）買い物の場の確保・交通網の充実

買い物の拠点については、Aコープ跡地及び道の駅みなみ波賀とし、お互いの良さを出し合うため、Aコープ跡地での買い物の場の維持・確保が必要であり、地域での議論をベースとした地域での運営を前提に、市としても投資経費も含めて支援すること。交通網の維持・充実については、地域住民も一体となってバスに乗車（バスを利用）するが、市としても例えばバスを小型化し、さらにきめ細かなバスルートを設定するとともに、利用者（子ども・高齢者）が乗車しやすい時間帯を設定すること。

役割及び機能	実現に向けての提言や地域が取り組むこと
日常生活に必要な買い物施設の確保	地域で議論されているAコープ跡地での買い物施設の運営を前提に、市としても投資経費も含めて支援を行うこと。道の駅みなみ波賀と双方にお互いの良さを出し合いつつ相乗効果を図るとともに、地域での運営ということになれば地域団体が惣菜を作り販売することも検討し、生産者が出荷できる仕組みや、買い物施設が存続できるような体制づくりが重要である。
交通環境の改善	公共交通としてのバスを維持し、さらに利便性の高いものにするため、地域住民が積極的に利用することの意識を醸成する。また、地域での支え合いの中での移動手段の確保などを行うとともに、歩くことが困難な高齢者のため、例えばバスを小型化し、さらにきめ細かなバスルートを設定するとともに、利用者（特に子ども・高齢者）が乗車しやすい時間帯を設定すること。

■ 検討委員会での意見

- 地域での議論をベースにAコープ跡地での地域での買い物施設の運営を検討したいと思う。
- 波賀町での定住や町外からの移住を進めるためには買い物施設が無いことを解消しなければならない。
- 移動販売車では買いたいものが買えないことがある。神河町のように、スーパー跡地を行政と地域住民が力を合わせて店舗を再開することができないか。
- 道の駅みなみ波賀とAコープ跡地での買い物施設の双方の良さを出し合って相乗効果を図ることが理想的である。
- 地域で惣菜を作り販売することや生産者が出荷できる仕組みが大切であり、地域で運営する買い物施設が赤字にならない体制づくりと支援が必要である。

(2) 生涯学習や文化・芸術活動の推進

高齢者の学びや趣味の場、若者の活動の場、さらには子どもから高齢者までの多世代の人たちが交流し、波賀町内で楽しみや生きがいを育み、その活動が波賀町内においてさらに広がる環境を整えること。

役割及び機能	実現に向けての提言や地域が取り組むこと
<p>生きがいや趣味づくり 文化・芸術活動</p>	<p>生涯学習や文化・芸術活動の拠点である市民センター波賀の老朽化が著しいため、波賀市民局の空きスペースを活用しつつ大ホール（資機材室や控室など大ホールに付随して必要な施設・設備を含む）を建て替えること。大ホールの建て替えにあたっては、文化・芸術活動が充実したものとなるよう音響設備を充実させること。大ホールは一宮町や千種町からも集まってもらえるよう、また、多くの人との交流ができるよう波賀市民局庁舎も含めて交流スペースやコミュニティスペースを整備すること。</p> <p>また、活気のある地域づくりや健康づくり、交流の場のために生涯学習や文化活動に取り組む人の増加を図ること。あわせて、図書室機能を充実することにより利用者の増加と利便性の向上を図ること。</p>

■ 検討委員会での意見

- 文化・芸術は元気が出るし、多くの人と触れ合えるので文化活動は強化していくべきである。
- 拠点施設へ行けば何でもできる、子どもから高齢者まで誰でも寄れる、交流も買い物もできるというようなことが理想的だ。
- 市民センター波賀利用者は高齢者が主体であり、施設の老朽化により使い勝手が悪く、また、手狭で機能的ではない。早期に建て替えが望まれる。
- 文化活動について生きがいを持ってもらい、活性化や健康のためにも取り組んでもらいたい。
- 文化や芸術というのは小さい頃の記憶や体験が将来にわたって影響を及ぼす。建て替えをするなら波賀独特のここにしかないというブランドのある素晴らしい建物になればと思う。
- ホールは波賀町だけのものという考え方ではなく、一宮町や千種町から集まってもらえるようなホールが望まれる。
- ホールは質の高いものが望まれる。
- ホールを木造にし、温もりや柔らかな音色が出るようにすることで市外からの利活用も見込むことができる。また、波賀市民局の旧議場も音響効果があるので小ホールとしても活用できないか。
- 現在の図書室は手狭で駐車場も狭く、高齢者にとっては行きづらい面もある。

(3) 子育て・教育環境の充実

子どもたちが複合遊具で遊ぶことができ、保護者同士の交流や多世代の交流も図ることができる公園を整備し、若者や子育て世代に選ばれる地域づくりに取り組むこと。また、子どもたちが自主的に学習することができる環境を整えるとともに、子どもたちの部活動の活性化のため専門的な指導者を招聘すること。部活動の外部指導者を招聘することで、学校の先生の働き方改革にもつながるものとする。さらに、メイプル福祉センターについては教育の場としての活用を検討するとともに、人口減少・子どもたちの減少を見据え、将来的には、幼稚園・小学校・中学校がひとつに集まり連携することで賑わいある教育空間を検討すること。

役割及び機能	実現に向けての提言や地域が取り組むこと
子育て環境の充実	子どもたちがのびのびと遊ぶことができる複合遊具を整備し、保護者や多世代の交流の拠点・憩いの場として整備を行うこと。子どもの数の減少が著しい中で、子どもたちの健全な成長のため、子育て支援プログラムについて、波賀町内だけでなく市内全体の子育て世代を対象とした子育て支援プログラムの交流拠点として強化を検討すること。
教育環境の充実	子どもたちが放課後に自主的に学習できる環境整備を行う。また、子どもたちの部活動の活性化のため外部からの指導者を招聘すること。賑わいある教育空間を目的として、メイプル福祉センターの教育の場としての活用を検討するとともに、将来的に、幼稚園・小学校・中学校がひとつに集まり連携することが可能かどうかを検討すること。

■ 検討委員会での意見

- 子どもたちがのびのびと遊ぶことができる複合遊具がほしい。
- 複合遊具の設置場所はこういった場所にあることが一番利用されるかについて、子どもを連れてくる大人の意見を聴く中で十分に検討する必要がある。
- 複合遊具は市内にも無いような特徴あるものにすれば町外からも集まり交流が生まれるのではないか。
- 現在の遊具は管理が行き届いていないのでは。費用がかかるだけであれば廃止することも必要である。
- メイプル福祉センターに学習機能を持たせることが望まれる。
- メイプル福祉センターには学習スペース程度でよいと思う。
- 部活動の活性化のため、外部指導者を招聘することが必要である。
- 現行の波賀幼稚園は園庭が広く小学校へ歩いて行けるなど立地的にも恵まれており、現行のまがよい。
- 将来的に、幼稚園・小学校・中学校がひとつに集まり連携することで、賑わいある教育空間が望まれる。
- 学校が終わった後に家以外で勉強する場所を提供することは大切だと思う。

(4) スポーツ・健康づくりの推進

子どもたちの部活動やスポーツの選択肢が広がり、部活動やスポーツを通じて多世代の交流・賑わいのある地域づくりをめざすこと。また、誰もが気軽に取り組むことができるウォーキングが盛んなまちにすることで健康づくりを推進すること。さらに、天候に左右されない多目的ドームなどの施設を整備することで利用者の利便性の向上を図ること。

役割及び機能	実現に向けての提言や地域が取り組むこと
スポーツの推進	波賀町外からの利用も多いメイプルスタジアムは維持していくことを前提に、さらなる活用の促進のため、多目的ドームなどの施設整備を検討すること。また、子どもたちのスポーツの選択肢を広げるための条件整備を図ること。さらに、スポーツ施設利用者と地域との交流を深めることが賑わいの創出に必要である。
健康づくりの推進	スポーツによる健康づくりも含め、ウォーキングやグラウンドゴルフなどの運動に習慣的に取り組むことで健康づくりを推進すること。ウォーキングコースとしては現状のコース以外にも波賀城までの登山路の活用やサイクリングロードの活用も考えられる。また、地域を挙げての運動会などにより健康づくりだけでなく賑わいのある地域づくりを図る。

■ 検討委員会での意見

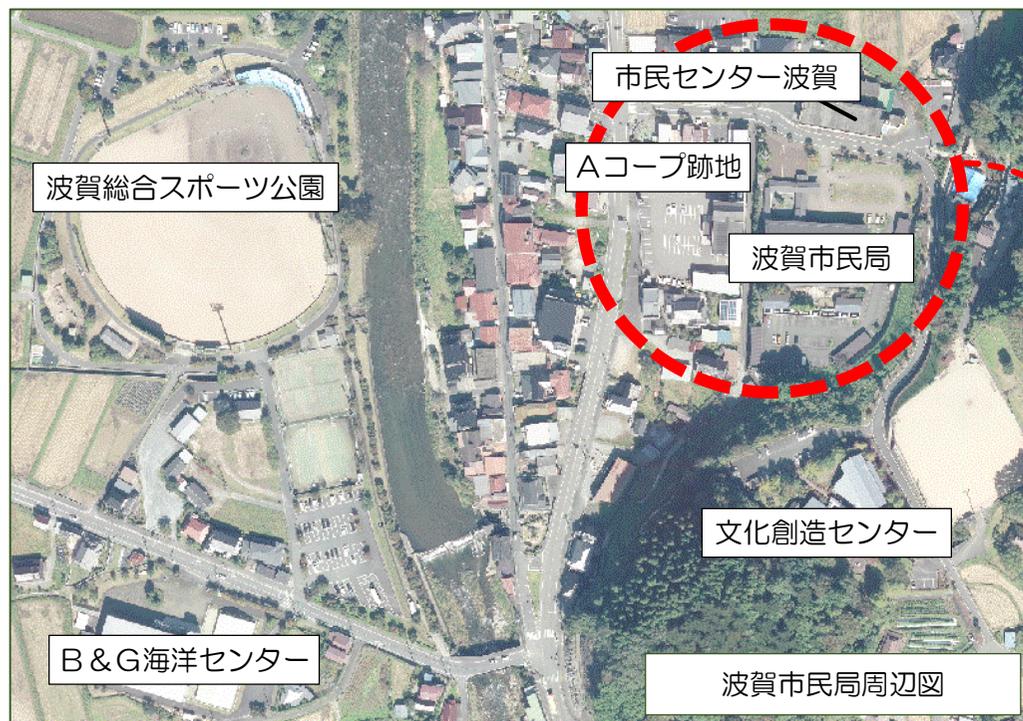
- ジュニアスポーツの環境整備として大人も一緒にみんなでスポーツをできるようにするシステムが必要である。
- カヌー競技者との交流として、大会参加者が地域の行事に参加できればと思う。
- 歩くことは体にいいことなので、もっとウォーキングを推進していくべきだと思う。
- 子どもたちがやりたいスポーツができる環境を整えて欲しい。
- 体育館の空調機器の整備が必要ではないかと思う。
- メイプルスタジアムは有名で市外の人々の知名度も高い。これをさらに活かすには多目的ドームであり、市外からでも人が来てくれる。
- 市外の人々が楓香荘に宿泊しメイプルスタジアムを利用することがあると聞く。今の施設を維持していくことも必要である。
- 町外へサイクリングロードを活用した合宿の受け入れなどのPRや、サイクリングロードを活用したウォーキングの実施なども考えられる。
- 波賀城までの登山を活用したウォーキングなどを考えられないか。登山道の整備も必須である。

V 拠点施設の機能

1 拠点施設周辺と既存施設の現状と方向性

① 波賀市民局周辺（買い物・交通、生きがい・趣味、子育て）

波賀市民局周辺の拠点施設の整備については、市民センター波賀は老朽化が著しく、建て替えが必要となっている。建て替えの規模については、波賀市民局が比較的新しく立派な木造の建物であることから、波賀市民局の空きスペースを最大限に活用し投資を最小限に抑える中で、少なくとも大ホールについては防災拠点という位置づけを持ちつつ波賀市民局とつながるかたちで新設すること（大ホールには資機材室や控室など大ホールに付随して必要な施設・設備を含む）。なお、建設に当たっては、森林とともに生きる宍粟市をシンボリックに表す木造とし、市民局とともに地域の誇れる施設として、市内外からの利用促進が図れるホールにすること。また、Aコープ跡地（地域で運営を検討する買い物施設）と接続し、連携していくことで、拠点エリア全体の賑わいを創出していくとともに、利用者の利便性向上を図るため、波賀文化創造センターの図書室機能の波賀市民局への移行を検討すること。



■拠点施設の役割と機能の整理

現 状

■ 波賀市民局

地域づくり（自治会、消防、防災等）
産業・社会資本（産業、建設、水道等）
住民窓口（戸籍・税・医療・年金等の窓口）

■ 市民センター波賀

生涯学習事務所、生涯学習、サークル活動
大ホール、集会所、避難所

■ 波賀文化創造センター

図書室、学習スペース

■ メイプル福祉センター

保健福祉、子育て支援、社会福祉協議会

整 備 後

■ （仮称）波賀市民協働センター

- ・行政窓口／事務室（生涯学習事務所含む） ・会議室
- ・図書室 ・生涯学習、サークル活動 ・大ホール
- ・集会所 ・避難所（防災拠点） ・調理室
- ・学習スペース ・公共交通の拠点 ・公園
- ・多世代交流も含め、その他拠点施設として求められる機能

※大ホールには資機材室や控室など大ホールに付随して必要な施設・設備を含む。

※将来的に…（仮称）波賀市民協働センターへの集約による賑わいの創出を図ること。

- ・保健福祉センター ・子育て支援センター
- ・社会福祉協議会

■ 検討委員会での意見

- 波賀市民局を活用し、行政機能と生涯学習機能や図書室機能を一緒にしたい。
- ホールは波賀市民局駐車場の西側に波賀市民局と連結するかたちで建設してもらいたい。
- 波賀市民局庁舎は木造で立派なので波賀市民局を活用する形がいいと思う。図書館は駐車場も狭く高齢者にとっては行きづらい面もある。学生にも勉強しやすい環境ができると思う。
- 議場を音楽ステージということも考えられる。
- 1 階が市民活用スペース、2 階が行政機能とする方が市民は利用しやすいのではないか。
- 波賀市民局のスペースのどこかでふれあいサロンのような機能がほしい。また、憩いの場である公園も併設できたらよい。
- 高齢者の横で子どもが遊んでいるような多世代が交流する場所となればよい。
- 市民局と買い物施設との間に連絡通路を設置するなど一体感があるまちづくりが必要である。
- 重複した機能を無くし、防災に重点を置くなど必要最小限の整備にしてはどうか。
- 市で進めている「木育」「ウッドスタート事業」の一環として、木工体験など市内外の交流の場となるようにできないか。
- 図書室を波賀市民局に移転させた後の文化創造センターをスポーツ合宿の拠点として検討してはどうか。

② 安賀周辺（子育て・教育）

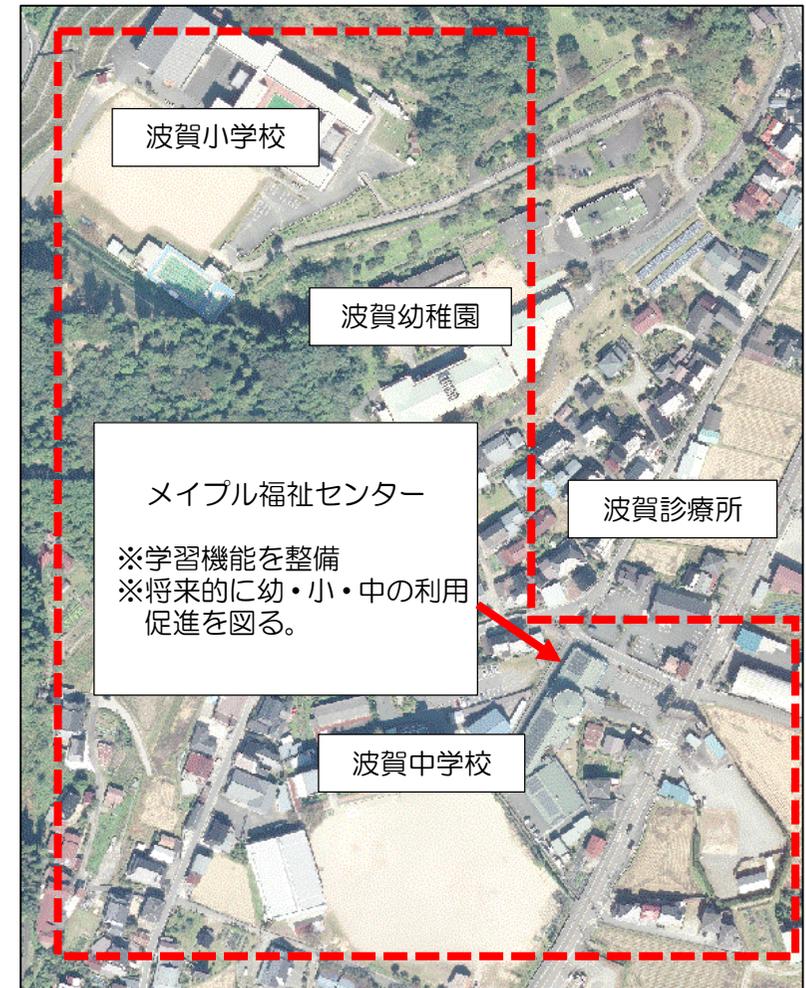
安賀には幼稚園・小学校・中学校の教育施設が集まっていることから、教育の拠点として位置付けることとした。将来的には、各教育施設がひとつになり連携することによる賑わいの創出も視野に入れた施設整備を検討すること。また、子どもたちの学習の場の確保として、メイプル福祉センターを活用し学習機能をもたせることを検討し、さらに、子どもたちの部活動の活性化のため、部活動の指導者を外部から招聘する仕組みを整えること。

メイプル福祉センターについては、木造で雰囲気としてあたたかい建物となっており、また、比較的新しいことから、当面の間は現行の機能を維持するものの、将来的にはその機能を波賀市民局に持たせることを視野に入れて検討し、その際は、メイプル福祉センターを教育の場として活用すること。

■ 検討委員会での意見

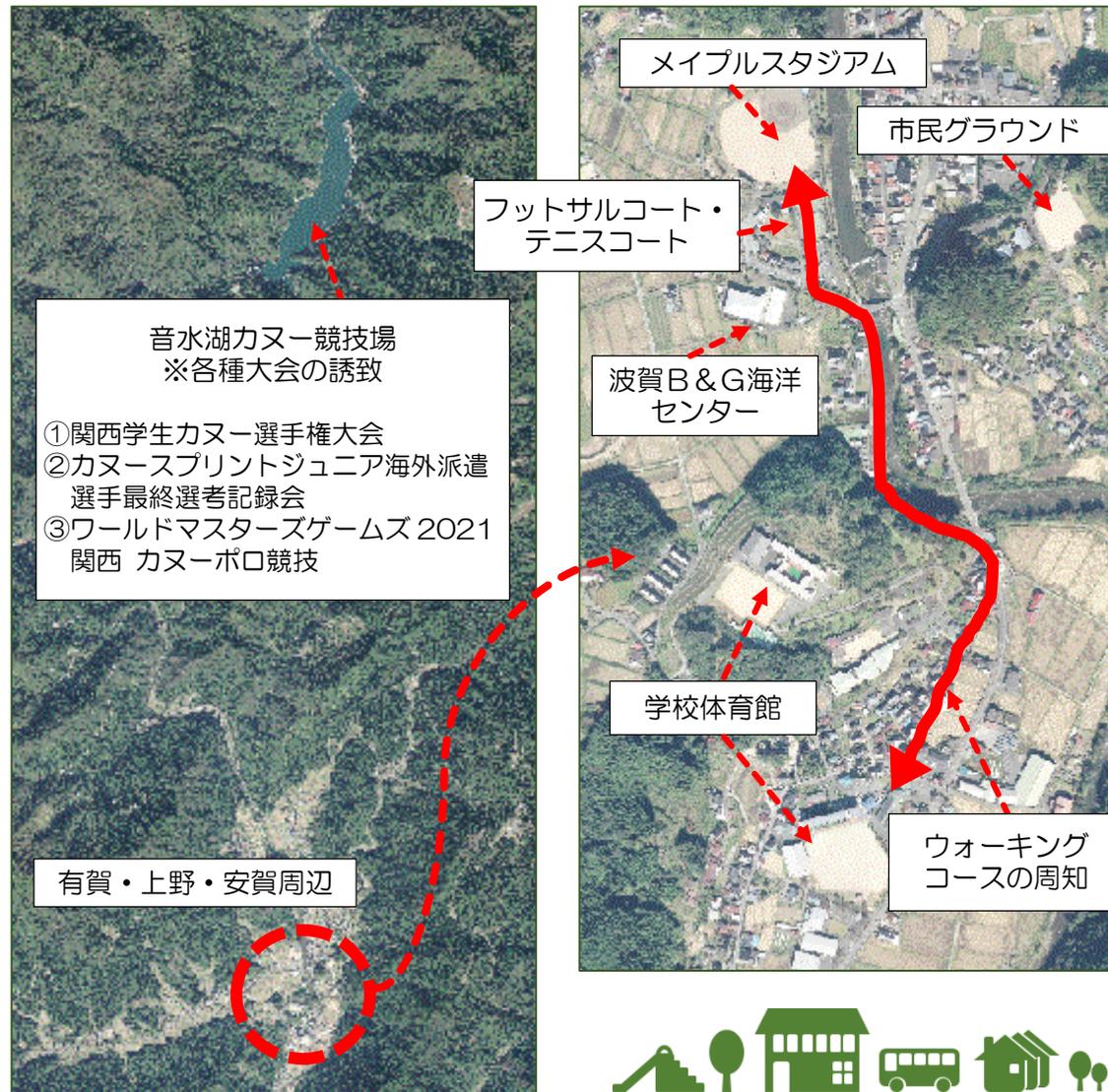
- 安賀に学校が集中しているので、幼・小・中の施設をまとめて既存の施設に全員が入れるようなことが理想だと思う。
- 部活動の選択肢を広げるためには、まず、指導者に来てもらうことが大切であると思う。
- 外部の指導者を招聘した方が、先生の休日・時間外を減らすことにも繋がるし良いのではないか。
- メイプル福祉センターを習い事や塾で活用するなど夢をもった検討も必要である。
- メイプル福祉センターには学習スペース程度でよいと思う。
- 学校を1つにすることや、メイプル福祉センターを市民局に集約することについては時間がかかると思う。
- メイプル福祉センターを有効利用していくという認識であるが、将来のことも考え、二重投資にならないようにすべきだと思う。

安賀周辺の拠点エリアイメージ



③ スポーツ施設

スポーツ施設についてはそれぞれの立地的な特性などもあり、1か所に集約し複合化させることは困難であることから、現状の施設を維持していくことを基本とし、機能を集約または変更することが可能なものについては今後検討していくこと。また、ウォーキングなど健康づくりについても重要であり、ウォーキングマップの周知やウォーキングコースを整備するとともに、学校体育館などが活用できることについても広く周知すること。なお、ウォーキングコースの整備については、サイクリングロードや波賀城までの登山路なども活用すること。



■ 検討委員会での意見

- スポーツ施設は一か所に集中させることは難しい。
- スポーツ立市を掲げるのであれば、子どもたちのスポーツの選択肢を増やす必要がある。
- カヌー競技者との交流として、大会参加者が地域の行事に参加できればと思う。
- ウォーキングを推進していくべきだ。
- 波賀B&Gについては、テニスコートの利用は非常に少ないため、全面フットサルに使えるようにしてほしい。
- 全天候型ドームを整備し天候を気にせずフットサルなどができるようにしてほしい。
- 波賀B&G海洋センター体育館に空調設備を整備してほしい。
- 市外からの利用が多いメイプルスタジアムをそのまま維持していくことも大切である。市外利用者は、波賀町内に宿泊されることも多い。
- 多目的ドームの整備を研究してはどうか。
- 多目的ドームがあれば雨天時でもグラウンドゴルフなどに活用できるのではないかな。
- 波賀城までの登山を活用したウォーキングなどを考えられないか。登山道の整備も必須である。

2 (仮称)波賀市民協働センターに向けた整備と今後の考え方

拠点施設が備える機能と拠点づくりに向けた取組を踏まえ、(仮称)波賀市民協働センターとしての整備について、次のことを想定し、計画策定を進めていくこと。

■ (仮称)波賀市民協働センターとしての整備

- **整備場所：** 波賀市民局地内
- **整備内容：** 波賀市民局の空きスペースの活用を基本とし、少なくとも大ホールを波賀市民局に隣接した形で新たに建設する。新たに建設する大ホールも含めて、施設及び設備の整備内容の詳細については、波賀生活圏の拠点づくり検討委員会委員（市民代表）との協議、また連合自治会や利用団体、関係者の意見聴取を前提に検討を行う。
市民センター波賀を解体した跡地の活用も含めて、市民憩いの場や複合遊具がある公園を整備する。
将来的にメイプル福祉センター機能を集約・複合化することを念頭に設計等を行う。
- **解体施設：** 市民センター波賀は解体する。
- **その他：** 「Ⅳ 生活圏の拠点づくりに向けた基本方針と取組に対する提言」を推進する施設とする。
森林のまちとして、積極的に地域の木材を活用したシンボリックな施設とする。

V まとめ及び提言における条件

波賀生活圏の拠点づくりは、地域で助け合うまちづくり、いつまでも波賀町に住み続けることができる環境や体制づくりにつなげていく必要があり、あらゆる世代の人たちが集まり交流が生まれ、また誰からも親しまれる、やさしい拠点施設とすることが必要であるため、これまでの提言内容に加え、次のことを条件に付して「波賀生活圏の拠点づくり検討委員会の提言」とする。

- ① 拠点施設がより親しまれるものとするため、拠点施設の名称についても波賀町域の住民の意見を聴くこと。
- ② 拠点施設の整備にあたっては、既存の施設を有効に活用することを前提に必要なものを建設し、一方では、既存施設を維持していくことにとらわれず、老朽化している施設を廃止することや、継続すべき施設については活用方法を検討するなど無駄な費用の削減を図ること。
- ③ 本提言後も波賀生活圏の拠点づくりについて具体的な内容の提案を考えているので、市としても提言後も継続して市民からの提案に関わること。
- ④ 本提言の内容を受け、今後、市で計画を策定し実行に移していく段階で、提言内容と違った方向（縮小または取り止め等）とする場合においては、検討委員会委員を参集しその理由を説明し了承を得たうえで、拠点施設の具体化と活用を含めた「生活圏の拠点づくり」の取組を進めていくこと。

VII 取組のスケジュール（案）

今後の「波賀生活圏の拠点づくり」に向けては、以下のようなスケジュールを想定して取組を進めることが望まれる。

取組内容		平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
拠点施設の整備・取組推進	本計画の周知と具体の計画に対する意見の聴取	→ →			
	設計事業者の公募・選定	→			
	基本計画・基本設計・実施設計		→		
	工事事業者の公募・選定		→		
	大ホール等建設・市民センター波賀の解体工事			→	→
	憩いの場（公園等）整備			→	→
	拠点づくりの取組推進	→	→	→	→

【波賀生活圏の拠点づくり検討委員会 会議録】

(1) 第1回 検討委員会	20
(2) 第2回 検討委員会	24
(3) 第3回 検討委員会	28
(4) 第4回 検討委員会	33
(5) 第5回 検討委員会	37
(6) 第6回 検討委員会	42
(7) 第7回 検討委員会	46
第1回～第6回検討委員会便り	49

1 波賀生活圏の拠点づくり検討委員会 会議録

(1) 第1回 検討委員会

1 開催日時	平成30年8月22日(水) 19時00分~20時40分	
2 開催場所	波賀市民局 第2会議室	
3 出席委員 (敬称略)	松本貞人、坂本幸子、中岡宰、松本繁信、平まさえ、安室美和、岡田周三、尾前和彦、小椋貴弘、中田浩一、可藤由紀、船積雅司、加藤智子、名畑健一	(欠席委員) 中谷浩臣、志水温子
4 事務局出席者	穴栗市長：福元晶三 波賀市民局：坂口市民局長、長田副局長、上杉係長、松木専門員 企画総務部：坂根部長、水口次長、地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、清水係長、大畑主査、幸長主事	
5 傍聴人数	0名	
6 議題等	1 委員長・副委員長の選任 2 報告・協議事項について (1) 委員会の運営に関する事項について (2) 地域の人口動態について (3) 「生活圏ネットワーク構想」について (4) 意見交換	
7 議事要旨		
市長	1 開 会	
市長	2 委嘱状の交付	
事務局	3 あいさつ 地域のみなさんが地域のことを考えてまちをつくっていく。将来のまちの方向性を出していく。大変なことだと思いますが、市もその出された方向にむかって進めていきますので、委員の皆様よろしくお願いします。	
事務局	4 委員長・副委員長の選任 検討委員会要綱の第6条に、委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定めるとあります。事務局案として委員長に、松本貞人委員、副委員長に、坂本幸子委員を提案します。いかがでしょうか。(拍手多数)	

委員長	<p>それでは、松本委員長、坂本副委員長よろしくお願いします。</p> <p>波賀町の拠点はどうするのか。各種団体の代表である委員のみなさんがいろんなところで拠点づくりの話をしていただき、みなさんの意見を聞いていただき、その意見をこの場で反映できるようにしていきたい。行政へのお願いとして、委員会で出た意見や思いを是非とも拠点づくりに活かしてもらいたい。委員会解散後も、意見反映の縮小・変更・中止などがある場合は委員会メンバーに説明をお願いしたい。拠点整備には行政なりの考えもあると思うので、そういった意見も参考にしていきたい。波賀町の次代を担う世代の人のためにも頑張っていきましょう。</p>
副委員長	<p>幅広い年代の方が集まられており、みなさんと一緒に勉強しながら波賀町の人口維持にむけて、さらに住みよいまちづくりのために何ができるかをみなさんと一緒に考えていきたいです。</p>
事務局	<p>5 報告・協議事項</p> <p>(1) 委員会の運営に関する事項について</p> <p>① 会議の傍聴と議事録の公開について</p> <p>② 波賀生活圏の拠点づくり検討委員会便りの発行について</p> <p>③ 委員会の所掌事務について</p> <p>事務局の説明どおり①②③（了承）</p> <p>④ 全体のスケジュール（案）について</p>
委員長	<p>資料には、H33 年度4月供用開始とあるが、決定なのか。</p>
事務局	<p>検討委員会での意見をふまえた拠点施設の整備内容にもよるが、市としてはなるべく早くして完成したいと考えています。</p>
委員長	<p>ソフト面などの話は続く可能性もあると思うが、平成 33 年 4 月というのは拠点施設のことのみか。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p>

	<p>(2) 地域の人口動態について (3) 「生活圈ネットワーク構想」について</p> <p>事務局の説明どおり(2)(3)(了承)</p>
委員	<p>A コープが閉店した。買い物する場についてもこの場で話し合われるのか。</p>
委員長	<p>生活圈の拠点ということからも、当然議論していく内容だと思います。</p>
各委員	<p>(4) 意見交換</p> <p>① 波賀町の魅力について ② 波賀町をより魅力ある地域にするための課題について</p> <p>以下、検討委員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゆったりとした時間を過ごすことができ、高校生まで元気に育っているが、若者が帰ってきたくても働く場所がないので大学生がまた帰ってこれるようなまちにしたい。 • 自然や観光資源がたくさんある。 • 高齢化、過疎化が目立つが、文化協会などいろんな趣味をしてがんばっている人が多い。 • 高齢でもみんな多趣味で元気であるし、子どももゆったりと大きくなっており、子育てにはいい環境だと思う。 • 働く場所が少なくなってしまうか心配している。 • 子育てする中で自然が豊かでのびのびできるので波賀に戻ってきた。波賀で子育てをしたいと思う人が増えるまちにしたい。 • 温かい人が多いなど人の魅力が波賀にはあると思う。 • 若い人に帰ってきてもらう方策が必要だと思う。 • 自然が魅力的なことはいいことだが、そこに限定せず、都市部へのPRは「なじみやすさ」などの魅力を発信するべきである。移住者が住みやすいと思える雰囲気づくりが大切だと思う。 • 生活圈の拠点づくりは建物だけではないと考えてよいか？ → ハード面とソフト面の両面があるのでいろんな視点から意見をしてもらいたい。また、ソフト面については今年度中の結論がありきではない。 • 観光資源、観光地のPRをし、外から人が来るような波賀にしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、帰ってきてもらえる地域にしたい。 ・サッカーグラウンドがあればいいと思う。市民センターを活用した合宿をしているのでそういった施設は今後もあってほしい。 ・新たな建物をつくるのではなく、旧野原小学校や戸倉スキー場など既存の施設をもっと活用するべきである。 ・子どもに部活動の選択肢がないので生徒数が増えることが大事である。 ・定住を促進するなら買い物施設や交通網の充実が必要である。 ・旧野原小学校や旧道谷小学校の活用が望まれる。 ・都会の人は、交流を楽しみにしている。人間味がある波賀の人は魅力的だ。 ・観光目的で波賀を訪れる人は多く、リピーターも多い。また、一度波賀に来ると波賀を好きになるというまちの印象がある。交流ができていることが魅力的である。これらのことを移住・定住につなげていくことや買い物施設が無いことの解消をしていかなければならない。 ・スポーツ立市を掲げるのであれば、子どもたちのスポーツの選択肢を増やすこと、経験がある指導者の確保が必要になってくる。子どもにはやりたいスポーツをやらせてあげ、スポーツを通じてまちを盛り上げたい。 ・メイプルスタジアムのフットサルコートを屋根付きの全天候型ドームにしてほしい。
委員長	<p>観光や自然、人の魅力、子育てに適している地域などの良いところの意見があった。次回は、課題を整理したうえで具体的にハード面・ソフト面をどうしていくかをまとめたい。事務局には旧野原小学校や旧道谷小学校の利活用状況が分かるものを示してもらいたい。</p>
事務局	<p>6 その他</p> <p>(1) 各団体構成員の皆様への幅広い周知について</p> <p>各団体で本日の内容を共有していただき、次回以降の意見交換時に活かしていただきたいと思います。次回は意見交換を続けながら、「生活の利便性・賑わいの創出」をどうしていくかを中心に具体的に話し合ってくださいと思います。</p>
事務局	<p>(2) 次回の開催日程について</p> <p>平成30年9月27日(木) 19:30 ~ 21:00</p> <p>波賀市民局 第2会議室</p>
副委員長	<p>7 閉会</p> <p>いろいろと意見がありましたが何かあれば、事務局、委員長、副委員長に言っていただければと思います。本日はありがとうございました。</p>

--	--

(2) 第2回 検討委員会

1 開催日時	平成30年9月27日(木) 19時30分～21時00分	
2 開催場所	波賀市民局 第2会議室	
3 出席委員 (敬称略)	松本貞人、坂本幸子、中岡宰、中谷浩臣、松本繁信、志水温子、平まきえ、安室美和、岡田周三、尾前和彦、小椋貴弘、中田浩一、可藤由紀、船積雅司、名畑健一	(欠席委員) 加藤智子
4 事務局出席者	波賀市民局：坂口市民局長、長田副局長、上杉係長、松木専門員 企画総務部：坂根部長、水口次長、地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、清水係長、大畑主査	
5 傍聴人数	0名	
6 議題等	1 買い物・交通について 2 子育て・教育について 3 生きがい・趣味について	
7 議事要旨		
事務局	1 開 会	
委員長	2 あいさつ	
事務局	3 協議事項 資料説明(生活圏の利便性の向上・賑わいの創出に向けて、将来を考えたうえで、買い物・交通、子育て・教育、生きがい・趣味、スポーツの4つの区分に分けて生活の利便性の向上・賑わいの創出につながる方策と拠点について意見交換)	
委員	7月4日の若者未来ミーティングに参加した。若者の自由な発想と意見を参考にしてもらえれば、今後おもしろいものができるかもしれない。	
委員	①買い物・交通について Aコープが閉店して以降、マックスバリュなど南部へ買物に出かけている。波賀でおかずの買物をする場所が少なく、不安もある。何かできることはないかと考えている。	
委員長	Aコープの閉店を受けて、5月に「波賀流通元気プロジェクト」を立ち上げ、すでに3回会議をしている。ファミリーマートも興味を	

	示しており地元とタイアップしたいとのことで自治会長会でも説明されている。
副委員長	たつの市のアマネカフェが発起人となり、JAハリマの協力を得てAコープ波賀跡地でウィークデーマーケットを開催している。大阪屋、栃尾商店も出店し、JAハリマも日用品雑貨を販売した。今後、月に1回開催することになり、今回は10月5日の予定。
委員	波賀町では、衣服の購入が困難で町外に出たときのついでに食材も購入するようにしている。
委員	子どもの遊び場が少なく、また、近くにショッピングセンターがあればと思う。
委員	若い世代は車で買い物に行くので困っていないが、高齢者の方や車に乗れない方は困っている。ネットショッピングでも購入しているが、高齢者の方向けに購入の仕方を伝えられる場があれば、困難な買い物を乗り切ることができ、交流や生きがいにもなる。
委員長	Aコープの販売車・ひまわり号では、最後の家へ行った時には売り切れている状況があるようで買えないことがある。
委員	上野の高齢者の方と郵便局へ一緒に行ったときに、上野商店街も昔はいろいろなお店があったことを聞いた。千種町は今もいろいろな商店があると言われていた。
委員	市民センター波賀を改修するのであれば、調理室もきれいにし、おかずを作り提供できればと思う。
委員	②子育て・教育について メイプル福祉センターに幼稚園を入れたらどうか。安賀には幼小中の連携など教育施設を集約するとよいのでは。
委員	安賀は教育ゾーンとするのがいい。上野は行政・福祉・買い物の拠点となればよいのでは。
委員	子どもの人数が減っていく中で、波賀だけで学校を維持するのは困難なのではないか。将来、一宮と一緒にいるかもしれないので、もっと先を見据えて考えるべきではないか。
委員	波賀幼稚園の園児は18人で園庭の広さは充分で、人数が少ないからダメというわけではない。少ない人数でも学べることはたくさんあり波賀幼稚園は残したい。歩いて小学校へ行けて、その道中も楽しんでいる、読み聞かせなども行っており今のままがよい。メイプル

	福祉センターを幼稚園にするのなら、園庭もしっかり確保してもらわなければならない。
委員	子どもが幼稚園と保育園へ通っている。それぞれの良さがあり、人数は少ないながらもいろいろ学んでいる。幼稚園の立地条件は今はベスト。改革が必要だとは思わない。
委員	中学校単独では、部活動が成り立たなくなっており、他校との合同練習の移動手段としてスクールバスがあるが、路線バスを無料にするなど子どもたちだけで移動できるように、交通手段をカバーすることで各学校を維持してほしい。
委員	子どもを塾に行かすにしても距離が遠いので負担が大きい。可能であるなら、波賀町内で塾的な対応ができればありがたい。波賀小学校では早朝勉強をするが、都会では塾にいらるので早朝に学校へは行かないようで、高校、大学への進学を思えば都会と田舎では格差を感じている。
委員	③生きがい・趣味について 市民センター波賀は生涯学習として活用している。芸術、芸能は元気が出るし、多くの人と触れ合えるので文化活動は強化していくべきである。今年も第45回文化のつどいを11月10日、11日に予定しており、演技や展示を行いながら、文化活動をしていることをPRする予定。市民センター波賀利用者は高齢者が主体で老朽化している施設なので使い勝手が悪く、手狭で機能的ではないので市民センター波賀の見直しをお願いしたい。文化交流がもっとできるようになればと思う。
委員	高齢者が多いので平屋がよいが、2階建てになるとしてもエレベータは設置してほしい。
委員	趣味が多種多様となり人数が集まりづらい。文化活動について生きがいを持ってもらい活性化や健康のためにも取り組んでもらいたい。
委員	文化協会登録団員が不便なく使える施設が必要。拠点を作るなら交通網を整備して集まれるようにしなければならない。車がない方の移動手段を確保してほしい。
委員長	移動手段としてバスが運行されているが曜日が限られている。地域で路線を確保するよう乗車に取り組んでいる。
委員	1便の利用数を確認すると0.4人や0.5人の実績で交通網の整備と運行数の問題は、赤字路線のことも考えると難しい課題だと思う。

委員	<p>今年は、特に台風等により避難することが多い年になっている。新しい市民センターは、避難所の拠点ともなるようにしてほしい。</p> <p>新しい市民センターでは食料品売場を1階にすればよい。ひまわり号はほしいものを事前にタブレット等を使って注文するようになれば、道中に商品が無くなり最後の人が買えないということは解消できる。</p>
委員	<p>④スポーツについて</p> <p>ジュニアスポーツの環境整備として大人も一緒にみんなでスポーツをできるようにするシステムが必要である。また、カヌー競技者との交流として、大会参加者が地域の行事に参加できればと思う。最後に、歩くことは体にいいことなので、もっとウォーキングを推進していくべきだと思う。</p>
委員	<p>人口が少なく施設を分散させると寂しくなるので、施設をジャンルで分けるのではなく集約して賑わいのある場所にしてほしい。そこへ行けば何でもできる、子どもから高齢者まで誰でも寄れる、交流も買い物もできるというような拠点が理想的だと考える。</p>
委員長	<p>次回は「拠点はどこがいいのか」について考えることとしたい。</p> <p>4 その他 次回の開催日程 10月25日（木）19：30 から波賀市民局第2会議室で開催</p> <p>5 閉会</p>

(3) 第3回 検討委員会

1 開催日時	平成30年10月25日(木) 19時30分~21時00分	
2 開催場所	波賀市民局 第2会議室	
3 出席委員 (敬称略)	松本貞人、坂本幸子、中岡宰、中谷浩臣、松本繁信、志水温子、安室美和、岡田周三、尾前和彦、 小椋貴弘、中田浩一、可藤由紀、船積雅司、名畑健一	(欠席委員) 平まさえ、加藤智子
4 事務局出席者	波賀市民局：坂口市民局長、長田副局長、上杉係長、松木専門員 企画総務部：水口次長、地域創生課：藤原副課長、清水係長、大屋主事	
5 傍聴人数	1名	
6 議題等	1 買い物・交通について 2 子育て・教育について 3 生きがい・趣味について	
7 議事要旨		
事務局	1 開 会	
委員長	2 あいさつ	
事務局	3 協議事項 資料説明(買い物・交通、子育て・教育、生きがい・趣味、スポーツの4つの拠点の場所について意見交換)	
委員長	<p>本日は、傍聴人が来られて大変うれしく思う。また意見もいただいております、委員会の議論の中で補足として紹介したい。毎月発行の委員会便りでもあるように、市民の皆さんからの意見も委員さんが代表で発言していただきたい。</p>	
委員	<p>①買い物・交通について 市民センターを改修するなら、1階部分にコンビニに入ってもらいたい。最近、公共施設に間借りしているのをよく見かける。タブレットを活用してコープ等の個配等うまく利用できれば買い物弱者も救えるのでは。市民センターの場所がどこになってもそこには買い物ができる機能がほしい。</p>	
委員	<p>お店が欲しい(市民の声)とよく言われる。バスの時間帯をみんなが利用しやすい時間帯になるように考えて欲しい。学校帰りの塾などへの送迎に利用したいが時間帯が合わない状態である。</p>	

委員	<p>大型バスである必要があるのか。バス停にさえ行けない人がいる現状である。デマンド方式（利用者の要求に応じる）での小型バスを考えるべきではないかと思う。</p>
委員	<p>老朽化による市民センター波賀の建て替えについてだが、買い物できるスペースを確保するのは難しいと思われる。市民センターはセンター機能を充実すべきだと考える。買い物できる店舗は、その周辺にあればいいのでは。交通に関しては、利用時間帯も考慮すべきだが、利用者側の意識も高めていかなければ、いくらバスを走らせても仕方ないのではと思う。</p>
委員	<p>電話1本で自宅に駆けつけるようなバスが一番いいのではないか。あと、市民の声として、Aコープ跡地に買い物できる店舗が欲しい。ネット販売ではなく、食料品等を買に行ける買い物場所が欲しい。神河町でも、スーパー跡地を行政と地域住民が力を合わせて店舗を再開されているようである。波賀町も同じようなことができないかと言われた。</p>
委員	<p>交通については、大型バスに乗車していない状態はもったいないので、小型にして、便数を増やすなどの工夫があれば良いと思う。</p>
委員	<p>Aコープの移動購買車・ひまわり号も良いが、店舗が欲しい。自治会内で高齢化が進んでいるので運転手さえいない状況である。運転手を確保する制度を確立し、高齢者等を乗せて店舗へいけたらと思う。</p>
委員	<p>Aコープが閉店し困っている人がいると聞いている。道の駅みなみ波賀ではAコープで扱っていたものも販売している。道の駅は、観光客向けのイメージを持たれているが、そうではない。情報発信ができていないと思う。</p>
委員	<p>Aコープの跡地を利用して利便性を高めるようなことができれば、JAとの粘り強い交渉も必要である。交通は、小型バスで自宅まで迎えに行くようなシステムがあればと思う。</p>
委員	<p>道の駅みなみ波賀も充実はしてきているが、日常の惣菜や食料品等が弱いと感じる。上野（市民局）を中心に考えた方が良いと思う。Aコープ跡地と市民局をつなぐことを提案したい。国道に面した立地条件を活かすような方策、波賀流通元気プロジェクトとの連携を図っていきたい。</p>
委員	<p>道の駅みなみ波賀も徐々に拡大していると思うが、車に乗れない方々は、Aコープの移動購買車（ひまわり号）を頼りにしておられ</p>

	<p>る。今後、Aコープが不振となると、来ない日がくるかもしれない。非常に困ることになる。</p> <p>交通も、バスに乗れる方はまだ良くて、本当にバス停まで行けない方もおられるわけで自宅まで電話でできるシステムがあればいいと思う。</p>
委員長	<p>バスに関しては、拠点をうまく結ぶ必要があると思うのと、移動購買車については、本当の弱者を守っていく必要がある。</p>
委員	<p>店舗を新築する必要は無いので道の駅の商品の種類を増やすべきである。乗車する人がいないと運転手のやりがいもないと思うし、小型化を進めて便数を増やすようなことができればと思う。</p>
委員	<p>たとえコンビニが入ってもすべてをカバーすることはできない。波賀に店舗型のスーパーが欲しい。</p>
委員長	<p>Aコープ跡地に半分コンビニが入って、もう半分は地域で総菜などを作って販売することも考えられる。道の駅とスーパー、お互いの良さを出し合っているのが理想的だ。買い物・交通について意見をまとめると、道の駅みなみ波賀、Aコープ跡地付近を拠点に考えていくということで、よろしいですね。</p>
委員	<p>②子育て・教育について</p> <p>山崎にいかなくても、波賀にでも出張の習い事教室みたいなものを定期的で開催してもらえればとても助かる。</p>
委員	<p>安賀に学校が集中しているので、メイプル福祉センターを拠点にして、習い事教室などを多く開催してもらえたらありがたい。</p>
委員	<p>今の波賀中では、部活（運動部）が選べない状況。スポーツの拠点施設に人が集まるようになったら、部活（サッカーなど）が選択できるのでは。まずは指導者に来てもらうことが大切と思う。</p>
委員	<p>安賀に学校が集中しているので、幼・小・中の施設をまとめて既存の施設に全員が入れるようなことが理想だと思う。</p>
委員	<p>波賀中は、老朽化が著しい。安賀を拠点に診療所跡地等も利用して、幼小中の連携をすれば良いと思う。</p>
委員	<p>これから、もっと子どもの数が減ると思う。どうせ建てるなら安賀にこだわる必要はないのでは。</p>

委員	幼・小・中は、同じところにあった方が良い。
委員	幼・小・中の一貫があればと思う。安賀が教育の拠点と考えるので、幼稚園はメイプル福祉センターの場所が良いと思う。
委員長	教育については、安賀を拠点に考えていくことでよろしいですね。
委員	<p>③生きがい・趣味について</p> <p>波賀文化協会が市民センター波賀を利用している。相当老朽化している。建て替えを希望する。また、合併後、波賀市民局庁舎が十分に活用されていないと思う（空き部屋が多い）。波賀市民局を活用し、行政機能と生涯学習機能、図書館機能を一緒にしたい。ホールは併設して建替えしてもらいたく、波賀市民局駐車場の西側に建設し、波賀市民局と連結することを考えてもらいたい。波賀市民局を中心に併設して、上野を中心に波賀の文化活動を行ってほしい。</p>
委員	趣味・生きがい・福祉は、繋がっていると思うので同じ場所が良い。
委員	この波賀市民局庁舎は木造で立派なので、波賀市民局を活かす形が良いと思う。図書館は駐車場も狭く、高齢者にとっては行きづらい面もある。学生にも勉強しやすい環境ができると思う。
委員	市民センターの老朽化は皆さんの意見と同じで、建て替えを望んでいる。避難所に指定もされており防災的な観点からも、波賀市民局と併設が一番良い。ひまわりの家も老朽化が著しい。センター波賀の建て替えや現在使われていない議場跡なども有効利用できればと思う。
委員	議場を音楽ステージということも考えられる。波賀市民局が拠点になり周辺整備をするなら、波賀花火大会などのイベントを開催しやすい環境を整えて欲しい。
委員	7月の豪雨災害の時に避難された方から、避難所の充実をして欲しいとの意見があった。車いすなどの方も安心して避難できる環境を。
委員	波賀市民局周辺を拠点に位置づけ、行政機能のうち窓口業務を1階フロアに集中させるという趣旨で、現在の波賀市民局での窓口業務とメイプル福祉センターで行っている窓口業務を1つにすれば住民の利便性は高まると思う。2階は1階窓口業務以外の部署の配置がい

<p>委員長</p>	<p>いのではないと思う。今は有効に活用されていない。</p> <p>さきほどから意見に出ている行政施設の面積や配置図を準備しているので、各自図面を参考にしてもらいたい。現在の行政機能の確認や職員の配置など、拠点を考える上で、イメージがしやすいと思う。</p> <p>図面だけではなく、現地の施設の見学会をしたいと思うので、お忙しいとは思うが、日程を調整していただけたらと思う。</p>
<p>副委員長</p>	<p>次回は、この図面を見ていただき、より詳細な施設の有効利用について考えていくことと、スポーツの拠点について意見交換をすることとしたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>4 その他 次回の開催日程 11月16日（金）19：30 から波賀市民局第2会議室で開催</p> <p>5 閉会</p>

(4) 第4回 検討委員会

1 開催日時	平成30年11月16日(金) 19時30分~21時00分	
2 開催場所	波賀市民局 第2会議室	
3 出席委員 (敬称略)	松本貞人、坂本幸子、中岡宰、中谷浩臣、松本繁信、志水温子、安室美和、岡田周三、尾前和彦、 小椋貴弘、可藤由紀、船積雅司、名畑健一	(欠席委員) 平まさえ、加藤智子、中田浩一
4 事務局出席者	波賀市民局：坂口市民局長、上杉係長、松木専門員 企画総務部：坂根部長、水口次長、地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、清水係長、植田主事	
5 傍聴人数	1名	
6 議題等	1 11月13日の行政施設見学について 2 拠点施設の配置の詳細について	
7 議事要旨		
事務局	19時30分から波賀市民局内の執務スペース及び会議室、空き部屋などを見学	
委員長	1 開 会	
事務局	2 あいさつ	
委員	3 協議事項 資料説明(11月13日の行政施設見学について説明、報告、拠点施設の配置の詳細について意見交換)	
委員	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学の報告 メイプル福祉センターは、居心地が良く、スペースも無駄がなく良かった。 	
委員	<p>キレイな建物でこれからも使って欲しい。社協と保健福祉センターは一緒の方がいいと思う。調理室の利用について学校の家庭科での使用などがあればもっといいと思う。トレーニング室も何か別のことにも活用できないか。</p>	
委員	<p>文化創造センターは、立地的に静かで学習しやすい環境だと思う。学習機の数を増やすなどまだまだ活用の余地があると思う。図書室を市民局の空きスペースを利用して移動できないかとも考えるが跡をどう活用するか。回り舞台を残すのか、活用できていないものをどうしていくか。</p>	

委員	<p>文化創造センターは、観月会で利用しているので、図書室が手狭で市民局周辺に移動したとしても、跡地利用を考えるべきではないか。高齢者センターの木工教室は活用されておらず残念である。市民センターは、階段が上りにくく高齢者には利用しづらい。ホールの舞台も手狭で文化のつどいなどのイベント時には、舞台を手作業で増設している状況である。また、広い調理室や防災機能を備えた和室は必要と感じている。</p>
委員	<p>市民センターの外壁もかなり老朽化している。</p>
委員長	<p>・意見交換 まず、老朽化した市民センター波賀については急ぐと考えられるので「生きがい・趣味」について機能を含めて意思統一を図りたい。前回から意見が出ているとおり、老朽化した市民センター波賀は、取り壊すという方針でよろしいか。（異議なし） では、次に、市民局を活用した一体的な整備として市民局に隣接した建替で意見交換を進めたいと思う。</p>
委員	<p>商工会北部事務所は、どうなるのか。</p>
委員長	<p>今回の拠点施設の話には入っていない。</p>
委員	<p>予算的なものはどのくらいか。</p>
委員長	<p>将来的な発想で、あまりお金のことを考えすぎずに議論してほしい。</p>
委員	<p>将来を見据えた物を建てないと、何年か後に自責の念にかられるのではないかと考えてしまう。</p>
委員	<p>市民センター波賀の利用者が不利益にならないようにするのが一番で、災害時の避難所機能の充実など、せっかく建てるならそれなりの設備は必要である。</p>
委員	<p>10年20年先を見て考えてはいるが、メイプル福祉センターの調理室を学校の家庭科で使うとか、図書室を学校の図書室と兼用するとか、子どもが減っていく中で、そのあたりの施設利用も考えていきたい。</p>

委員	市民センター波賀を市民局の隣に併設するなら、現在ある道路を付け替えるくらいの考えがあってもいいのでは。メイプル福祉センターのような段差のない施設も魅力的である。
委員	市民センターの活動に支障が出るのは問題だが、新しい建物を建てるとなると委員として責任を感じる。今あるものを有効利用することを一番に考えていきたい。
委員	新しい建物の方が良いが後々の負担を考えるとどうか。
委員	建替となると、ホールを多目的に使えるようなホールが望ましい。その他の部分は市民局を有効に活用することが考えられる。
委員	まだ新しい建物なので難しいと思うが、商工会北部事務所も拠点の一体化に含めなければという考えもあるが、建設に補助金が入っているはず。実際は、拠点施設整備についても国からの支援もあるだろうしそのバランスを考慮し、発想として思い切りがなくなって中途半端な建替になるのではと危惧する。
委員	市民局の1階をホールにする、また、調理はメイプル福祉センターの調理室を活用するなど重複した機能を無くし、防災に重点を置くなど必要最小限の整備にしてはどうか。
副委員長	メイプル福祉センターは、段差がなく、明るさもあり雰囲気の良い施設である。1箇所への集中は難しいが、安賀は教育の拠点という意見が前回あったのでメイプル福祉センターを習い事や塾で活用するなど夢をもった検討も必要である。
委員長	今ある機能を活かしつつ、拠点づくりの考え方、将来的に1箇所した方がいいなど、必要な機能の意見を出し合って欲しい。大ホールは、現在あるステージが狭いので広いほうが良いとか、何が必要かなど意見をもらいたい。
委員	ホールは1階が良い。毎日行われていない文化的な行事などは2階でも良い。避難者も活用する和室は必ず要る。談話室も要る。
委員	音響設備の充実も図って欲しい。
委員長	市民局をどう活かすかも考えていきたい。

委員	市民局の2階の空室を有効利用していきたい。
委員	市民センター波賀のホールは何人収容か。小中学校の体育館を利用できないのか。
委員長	ホールの収容は、200-250人程度。講演会などでよく利用されている。
委員	学校の体育館は広すぎる。その規模での行事は現在のところない。
委員長	今年の市民センター波賀への最大避難者は。
事務局	和室に25-30世帯が避難されていた。
委員	自分が子どもの頃住んでいた街では、小学校の演奏会を市の立派なホールでさせてもらい感激した記憶がある。文化や芸術というのは、小さい頃の記憶や体験が将来にわたって影響を及ぼすと思う。座席が階段式のホールもある。建替をするなら、波賀独特のここしかないというブランドのある素晴らしい建物になるようならばと思う。
委員長	<p>次回は、機能的に必要なものをもっと掘り下げ、活用できるものは活用することで議論していきたい。</p> <p>4 その他 次回の開催日程 12月17日（月）19：30から波賀市民局第2会議室で開催</p> <p>5 閉会</p>

(5) 第5回 検討委員会

1 開催日時	平成30年12月17日(月)19時30分~21時00分	
2 開催場所	波賀市民局 第2会議室	
3 出席委員 (敬称略)	松本貞人、坂本幸子、中岡宰、松本繁信、志水温子、平まきえ、尾前和彦、小椋貴弘、中田浩一、 可藤由紀、加藤智子	(欠席委員) 中谷浩臣、安室美和、岡田周三、 船積雅司、名畑健一
4 事務局出席者	波賀市民局：坂口市民局長、長田副局長、松木専門員 企画総務部：坂根部長、水口次長、地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、清水係長、植田主事	
5 傍聴人数	4名	
6 議題等	1 生きがい・趣味について 2 子育て・教育について	
7 議事要旨		
事務局	1 開 会	
委員長	2 あいさつ	
事務局	3 協議事項 資料説明(施設建替えにかかる費用負担等について説明。いきがい・趣味、子育て・教育の拠点に必要な機能について意見交換)	
委員長	①生きがい・趣味について 生きがい・趣味、市民センターのところで再度必要な機能があれば話を聞かせていただきたい。	
委員	市民センターに新しいホールをつくるということだが、波賀市民局のスペースのどこかでふれあいサロンのような機能がほしい。また、憩いの場である公園も併設できたらよいと思う。	
委員長	公園について各施設に公園を設置する方がよいのか、それとも市民局に大きい公園を1つ設置する方がよいのかどうか。	
委員	鳥取の若桜にある長いすべり台のある公園くらい大きな公園があれば波賀町以外からも来てくれるのかなと思う。子どもが小さい時はもっと遊べる大きな公園がほしいという意見を他のお母さん方からいただいており、小さい公園をいくつというのも魅力的だが、1つ大	

	<p>きな遊べる公園があったらよいと思う。</p>
委員	<p>鳥取の公園によく遊びにいったが、行きやすく駐車場が広がった。市民センターの周りにも休耕田がたくさんあるのでぜひ利用してほしい。みんなが集まるためには、目玉になるようなものがあればと思う。</p>
委員	<p>太子に、陸上大会など試合が行われている場所の周りに公園があり、試合の合間に子どもを遊ばせてやりたいので良いと思う。メイブルの球場の近くにある公園は小さすぎると思う。</p>
委員	<p>学生が使いやすいこともあり、ホールの場所を安賀にもっていき、趣味と教育とを一緒にした方が良いのではないかとと思う。</p>
委員長	<p>今回、みなさんの意見からホールを新しく立て直すことは決定する。その他に意見はあるだろうか。</p>
委員	<p>図書室が手狭で、市民局のスペースにもってくるという案もあるが、もし保健福祉関係の部署が市民局に入ってくるのであれば、メイブル福祉センターに図書室をもっていく、小・中・高校生が勉強する施設としても使えるのではないかと。</p>
委員	<p>必ず平成 33 年 4 月に供用開始しなければならないのか。</p>
事務局	<p>人口減少対策として平成 33 年 4 月から供用を開始できたらいいと考えているが、必ずしも平成 33 年 4 月にというわけではない。</p>
委員	<p>建った後のことを考えて場所や施設の規模を検討していかなければならない。利用者のキャパにあった施設にするべき。どういう人を取り込んでいくかも考えていかなければならないと思うし、日中、波賀におられる年齢層にスポットを当てるべきであり、なかなか土日に波賀町以外から人を呼んでくるのは難しいと思う。ウィークデイに利用してこそ、拠点施設としての意味がある。幼・小・中・高校生が使えるようなホール、図書室にしてはどうかと思う。</p>
副委員長	<p>これからますます高齢化率が増加していく中で、波賀に住んでおられる方々も生きがいをもってということで、高齢者の方とも共有できるものも必要ではないかと思う。</p>
委員	<p>色々な話を聞いてなるほどと思う。今、気になっていることは、宍粟市で取り組まれている各町域の拠点づくりについて、一宮・波賀・千種町域の予算配分など、事業費の使い方が分からないので教えてほしい。</p>

事務局	予算配分を最初から決めているわけではなく、検討委員会での意見を参考にした計画で事業費も変わってくる。
委員長	第2回の会議の中で「人口が少なく施設を分散させると寂しくなるので、施設をジャンルごとに分散するのではなく、集約して賑わいがある場所にしてほしい。そこへ行けば何でもできる、子どもから高齢者まで、誰でも寄れる、交流も買い物もできるような拠点が理想的だろうと思う」という意見もあった。
委員	いろいろな意見があり、1つにまとめることは難しく、いくつかの案を出す中で最終的に市の方で判断してもらえないのでは。
委員	図書室については、小学校にも中学校にも図書室があるため、安賀にもってくる必要はないのでは。市民局側であれば、お年寄りの方や大人も借りて帰れるし、子どもだけでなく大人も対象にするべき。それこそみんなが集まってこられるような公園もつくり、お茶も飲めるスペースがあるなど、行ってみようかとなる感じだとみんな寄りやすい。そんな魅力ある場所にしたら一番いいと思う。無理に意見をまとめようとせず、色んな意見を出し合えば、市でまとめてもらえる。
委員	波賀市民局の2階の空きスペースを活用していくとなっているが、図面を見ると大変活用しづらいと思った。波賀市民局の2階自体をもっと使いやすくはできないだろうか。ひとつひとつの部屋が狭かったり、議場が使いにくかったりする。仕切りを全部とっばらって広いホールをつくるなど。
委員	東播磨の県民局であれば、1階が全てカフェになっていて行政機能は全て2階にある。1階は市民の方がお茶したり、ちょっと図書室のスペースがあったりなど。2階に市民のスペースがあると騒ぎにくかったり、お年寄りの方が行きにくかったりする。もし市民局を活用するのであれば、2階に行政機能を移した方が、風通しのよいものになるのではないかと思う。
委員	市民局にそうしたものができれば、市民センター波賀もまた別の機能を考えることができるのではないか。
委員	波賀市民局というこれだけ良い建物があるのだから、そこにみんなが集まってくるような使い勝手の良いものにしたい。
委員	建物が特殊なので、そういう風にしたら波賀町の方だけでなく、もしかすると波賀町外の方もここに来られるかもしれない。
委員	市民センターを利用される方は、比較的高齢者が多く若い人はあまり来られない。そこを利用する者は、その充実が何よりの希望で

<p>委員長</p>	<p>あるので、多目的に使えるホール、色んなかたちで利用しやすい建物を早急に建ててほしいと思っている。12月9日(日)のファミリーコンサートが波賀の市民ホールで行われたが、大勢の方が来られて会場がいっぱいになったり、舞台が狭かったりした。こういった文化的な事業は過疎であるからこそ必要な事業であって、多目的なホールがあれば、他町の色々な催しも行われ、住んでいる者も楽しめる。</p> <p>また、市民局については、行政区分と生涯学習区分の管理区分をどうするか、平日、休日、昼間、夜間といった区分をどうするか考えていかなければならない。</p> <p>何人かの方から、ホールは波賀町だけのものという考え方ではなく、一宮町や千種町から集まってもらえるようなホールにしてほしいと言われている。そういったことを踏まえて考えてほしい。山崎町には文化会館という立派なホールがあるが、北部にはそこまで大きなホールはない状況である。</p> <p>生きがい・趣味についてはこれまでのみなさんの意見でまとめさせていただく。</p>
<p>委員長</p>	<p>②子育て・教育について</p> <p>子育て・教育の拠点については、前回までの会議で安賀を拠点とするということではほぼ決定している。前回までの話し合いの内容を踏まえ、その他意見を出していただきたい。</p>
<p>副委員長</p>	<p>スポーツ等で子どもたちが合宿をする場所、塾に行く場所がないということから、そういった貸出しができる場所にメイプル福祉センターが良いのではないかという意見が以前あったと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>市広報で宍粟市の学力が低いことが分かり、地域との関わりなどは宍粟市の良いところであるが、学力の底上げをしようとすると、メイプル福祉センターの中での塾の機能がいるのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>今の環境であれば学校外で勉強している子は少数だと思うが、周りに環境がないからといって、諦めてしまうことがあってはならないと思う。選択肢がほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>行政が運営しているメイプル福祉センターに、民間で運営されている塾が入るのは選択肢としては難しい。ただ、空き家を活用して塾を運営するということであれば、起業という観点から支援も考えられる。</p>
<p>委員</p>	<p>家以外で勉強する場所をつくることに賛成である。自身も場所を変えて勉強していたので、勉強する場所を提供することは大切だと思う。</p>

委員	<p>みんなと一緒に勉強し、加えて学校の宿題もしてくれる、分からないところを教え合ったり、先生に教えてもらったりすることがすごくありがたい。学校でも放課後にチャレンジ塾をしてはいるが、早めのお迎えに行けないなどなかなか難しい。子どもが自分から勉強したいという場所があればありがたい。</p>
委員	<p>子どもたちが学習するスペースがあってもいいと思う。今も図書室に勉強できるスペースがあるので、メイプル福祉センターには学習スペース程度でよいと思う。</p>
委員長	<p>次回、子育て・教育のことについては、もう少し話し合うこととする。今、メイプル福祉センターは、保健福祉課、社会福祉協議会、子育て支援センターが入っているが、教育の拠点として意見が出たように色々な使い方があると思う。図書室機能や勉強スペース、合宿のための開放された施設にできないかという意見があったと思う。なるべくメイプル福祉センターに教育機能を集約して、行政は1つにするというような考え方もあると思うため、次回考えていきたい。</p> <p>4 その他 宍粟市と波賀町の出生人数について回答（次回） 次回の開催日程 1月29日（火）19：30から波賀市民局第2会議室で開催</p> <p>5 閉会</p>

(6) 第6回 検討委員会

1 開催日時	平成31年1月29日(火) 19時30分~21時00分	
2 開催場所	波賀市民局 第2会議室	
3 出席委員 (敬称略)	松本貞人、坂本幸子、中岡宰、松本繁信、志水温子、平まきえ、安室美和、岡田周三、尾前和彦、 小椋貴弘、可藤由紀、船積雅司、中田浩一、加藤智子、名畑健一	(欠席委員) 中谷浩臣
4 事務局出席者	波賀市民局：坂口市民局長、長田副局長、上杉係長、松木専門員 企画総務部：坂根部長、水口次長、地域創生課：西嶋課長、清水係長、大畑主査	
5 傍聴人数	2名	
6 議題等	1 出生数の推移 2 「生きがい・趣味」「子育て・教育」「スポーツ」の拠点に必要な機能について	
7 議事要旨		
事務局	1 開 会	
委員長	2 あいさつ	
事務局	3 協議事項 資料説明(出生数の推移、「生きがい・趣味」「子育て・教育」「スポーツ」の拠点に必要な機能についての意見交換と確認)	
委員長	<p>「生きがい・趣味」については、資料のとおりで、市民センターを市民局に併設することや、市民局の活用と業務の一本化、ホールや避難所機能の充実、憩いの場の整備などの意見が出されている。また、投資は最小限度にする意見もある。この内容で意見をまとめたいと思う。</p> <p>「買い物・交通」については、地域での運営について波賀流通元気プロジェクトが旧Aコープ跡地の活用を議論していたり、アンケートを実施されたりしている。NPO法人を立ち上げることについての提案も受けている。市民局と買い物施設との間に連絡通路を設置するなど一体感があるまちづくり(市民局・買い物・市民センター波賀)が必要である。この内容で意見をまとめたいと思う。</p> <p>「子育て・教育」については、教育の拠点は、安賀ということで一致していた。幼・小・中の一貫した教育のため建物を一か所に集めることや、施設の利用などを行うことで賑わいが生まれる。また、メイプル福祉センターでの学習機能も提言したい。このような内容で意見をまとめたいと思う。</p>	

委員	意見は出揃ったと思うが、全てのことを同時にするのは困難であり優先順位をつけるべきではないか。学校を1つにする話や、メイプル福祉センターを市民局に一本化することについては、すぐにできる話ではなく時間がかかると思う。そういう認識でよいか。
委員長	当然メイプル福祉センターを有効利用していくという認識である。ただ、将来のことも考え、二重投資にならないようにすべきだと思う。
委員	一宮、千種と同じように、波賀も「波賀生活圏の拠点づくりの考え方」が策定されると思うが、今後のスケジュールを教えて欲しい。このまま設計等に入り、進んでいくのか。建て替え等になる場合など、施設の利用者等と意見交換する場はないのか。
事務局	今後の進め方は、この検討委員会から考え方をいただき、市が設計について業務発注となるのだが、まず始めに、考え方を整理、条件を整えてから提案型プロポーザルを実施する。設計業者が決まれば概略の設計をしてもらうこととなるが、連合自治会や利用団体などにも意見を聴きつつ設計を進めていきたいと考えている。
委員	この検討委員会はいつまでやるのか。
事務局	3月で終わります。さきほど説明したとおり提案できる内容が出来上がったときには、みなさんに見てもらう。
委員	検討委員会が終わった後、意見を出す場はあるのか。
委員	実施設計ができる前には、どんな機能が必要であるとか、使いやすい施設を作るために意見を言う場を設けて欲しい。
事務局	今回の検討委員会の考え方を一旦市で預かる中で、必要な部分について相談したいと考えている。
委員	検討委員の意見を反映した施設等を建設して欲しい。
委員	他には無いほど良いホールにしようという意見もあったことも盛り込んでもらいたく、広さなども含めていろいろな団体の意見を聴いてもらいたい。
委員長	機能面では、利用者の方の意見を聞いて欲しい。市へのさらに詳細な意見提言の調整は、私が代表でさせていただきたく、第7回のと

	<p>きにその手法についてみなさんにお知らせしたい。</p> <p>この検討委員会で興味のある方は、4月以降もぜひ参加して欲しい。</p> <p>■「スポーツ」の拠点に必要な機能について</p> <p>波賀の他のスポーツクラブからも聞いた意見ですが、部活動が強制のように感じるので、そうでなく、クラブチームなどでの活動も同様に扱ってほしい。子どもたちがやりたいスポーツができる環境を整えて欲しい。波賀B&Gについては、テニスコートの利用は非常に少なく、全面フットサルに使えるようしてはどうか。フットサルだと利用はかなり増加すると思う。また、全天候型ドームを整備してもらいたい。</p>
委員	B & Gをよく利用するが、体育館の空調機器の整備が必要ではないかと思う。バレーなどで子どもたちがよく利用している。
委員長	空調機器の整備は、市で行っているのと思うが、学校だけか。
事務局	子どもたちが普段利用している普通教室・特別教室への整備を行っている。
委員	小・中学校の体育館は、市民も安価に利用できることをもっと周知してもらいたい。
委員	外部の指導者を招聘した方が、先生の休日・時間外を減らすことにも繋がるし良いのではないか。
委員	スポーツ施設は一か所に集中させることは難しいかもしれない。
委員長	メイプルスタジアムは有名であり市外への人の認知度も高い。これをさらに活かすには多目的ドームであり、市外からでも人が来てくれる。但馬ドームもいい例である。波賀にも雪対策も兼ねて、多目的利用等で全天候型の施設があればと思う。
委員	テニスコートの利用が少ないのであればフットサルにすることも良いと考える。B & G体育館も空調を整備し、有賀をスポーツの拠点として充実させてはどうか。市外の人が楓香荘に宿泊しメイプルスタジアムを利用することがあると聞く。今の施設を維持していくことも必要である。
副委員長	今回は、今日までの意見を集約し、「波賀生活圏の拠点づくりの考え方」を会議開催日の1週間前に郵送するので、各自、確認してもら

った上で、議論したい。

4 その他 次回の開催日程

3月12日（火）19：30から波賀市民局第2会議室で開催

5 閉会

(7) 第7回 検討委員会

1 開催日時	平成31年3月12日(火) 19時30分から21時00分	
2 開催場所	波賀市民局 第2会議室	
3 出席委員 (敬称略)	松本貞人、坂本幸子、中岡幸、中谷浩臣、松本繁信、志水温子、平まきえ、安室美和、岡田周三、尾前和彦、小椋貴弘、中田浩一、船積雅司、加藤智子、名畑健一	(欠席委員) 可藤由紀
4 事務局出席者	波賀市民局：坂口市民局長、長田副局長、上杉係長、松木専門員 企画総務部：坂根部長、水口次長、地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、清水係長、大畑主査、植田主事	
5 傍聴人数	2名	
6 議題等	波賀生活圏の拠点づくりの考え方(提言)について	
7 議事要旨		
事務局	1 開 会	
委員長	2 あいさつ	
事務局	3 協議事項 波賀生活圏の拠点づくりの考え方(提言)の案について説明	
委員長	提言書には公開している議事録と便りもつけることとする。	
委員	地域で惣菜の意見もあったが、出荷者の収支がプラスになるのであればいいが、マイナスになるようだと続かないと思う。継続的なこととなるように支援も必要ではないか。	
委員	JAへ出荷している人も取り入れる。現在は、JAが集荷して一宮町の伊和の里まで運んでいる。波賀でもできればいいのにとと思う。ロスを減らすためにも受注生産ができればと思う。	
委員	「波賀流通元気プロジェクト」の表現を「地域」で統一した方がいいと思う。	
委員	大ホールは、防災拠点を含むことを忘れず記載して欲しい。	
委員	大ホールといっても、控え室や資機材室もなど必要な設備の確保して欲しい。	

委員	「いいホールを建設し、照明や座席を豪華にする」というような意見も出されたが、「質の高い」ということを記載した方がいいのではないか。
委員	市はウッドスタート事業を展開していくということだったので、木製品の販売等、木を前面に売り出していけば、市外の人を呼べるのでは。図書室を移転させた跡地を体験施設などに活用できるのでは。
委員長	環境に優しい、木製品をつくる場所などを付け加えてみたいと思う。
委員	旧議場でコンサートをした経験がある。音が響いて非常にいい。木造のホールを作って欲しい。また、旧議場を小ホールとして活用できないか。
委員	遊具の場所の選定について、どういった施設の近くにある方がいいのかなど子どもを連れてくる大人の意見を聴く中で、十分検討する必要がある。複合遊具を作ればいいということだけではないと思う。
委員長	拠点エリアの中でこれから考える。周辺の機能も一緒に考えていく。
委員	休日には、山崎町の「かみかわ緑地公園」「城の子公園」によく行く。市外では、姫路市のイオンリバーシティ前の公園など、大きなスベリ台とか、急なスベリ台とか目玉な遊具があれば人が集まりやすいのではと思う。
委員	高齢者の横でこどもが遊んでいるような多世代が交流する場所になればいいなと思う。
委員	ウォーキングの地図の中に波賀城までの登山を載せるのはどうだろうか。波賀城の記載がこれまで一切ないので、どこかで波賀城が登場するようにしてほしい。
委員	サイクリングロードの整備を行ってもらい、通行止の箇所を減らしてもらい、その道で安心してウォーキングできるようになればと思う。
委員	メイプルスタジアムで合宿や練習した後に、サイクリングロードをランニングしているのを見たことがあるので通行に安全な環境を整備してほしい。

委員	波賀文化創造センターの跡地利用の件だが、老朽化はしているが、グラウンドが目の前にあるので、利用者の合宿所などになればいいと思う。
委員長	検討委員会でまとめた提言書を、市長に提言させていただき、解散となるわけですが、今後、提言内容と違った方向となる場合は、検討委員を参集し、了承を得て進めていくこと。と、いうことを条件にして、この提言書を市長に渡したいと思う。
副委員長	今後もみなさんには色々な形で意見をいただくこともお願いすることもあると思うのでお願いしたい。
	5 閉会

波賀生活圏の拠点づくり検討委員会便り 第 1 号

宍粟市では、人口が減少してもみんなが支え合い、地域のつながりで助け合っている温かいまちづくり、どうすれば波賀に住み続けられるかを考えるため、「波賀生活圏の拠点づくり検討委員会」を8月22日に立ち上げ、16名の皆さんを委員として委嘱しました。



委員長	松本 真人 さん	副委員長	坂本 幸子 さん		
委員	中岡 幸 さん	中谷 浩臣 さん	松本 繁信 さん	志水 温子 さん	
	平 まさえ さん	安室 美和 さん	岡田 周三 さん	尾前 和彦 さん	
	小椋 貴弘 さん	中田 浩一 さん	可藤 由紀 さん	船積 雅司 さん	
	加藤 智子 さん	名畑 健一 さん			



検討委員会では、交流の拠点づくりだけでなく、生きがいづくり、賑わい創出などハード面及びソフト面の両面から、いろいろなことを話し合っています。第1回は波賀町の「魅力」「より魅力ある地域にするための課題」のうち主に「魅力」について話し合いました。

検討委員会での主な意見

- 温かい人、魅力ある人が波賀には多い。 ・ 自然、観光の素材がある。
- 若者が帰ってこられるよう働く場所があるまちにしたい。
- 定住を促進するためには買い物施設や交通網の充実が必要だ。
- 自然が豊かで子育てもゆったりのびのびでき、子育てにはいい環境だ。
- 波賀を訪れる人はリピーターが多く、みんなが波賀を好きになるというまちの印象があり、交流もできている。これを移住・定住につなげていきたい。
- 市民センター波賀をスポーツ合宿で活用しており今後も同様の施設はあってほしい。
- 今ある遊休施設を含めもっと有効活用するべきだ。
- 子どもにはやりたいスポーツをさせてあげたい。そのためには経験ある指導者の確保が必要。スポーツを通じてまちを盛り上げたい。

第2回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会は、9月27日（木）午後7時30分から波賀市民局で開催し、「生活の利便性・賑わいの創出」について話し合います。「こうしたらいいのでは？」など、検討委員さんを通じてみなさんのご意見をお聞かせください。

※生活圏の拠点施設については、平成33年4月の供用開始を目標に進めたいと考えています。

■ 波賀生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

宍粟市役所企画総務部 地域創生課
電話：0790-63-3066
FAX：0790-63-3060
e-mail：kikaku-kk@city.shiso.lg.jp

波賀市民局まちづくり推進課
電話：0790-75-2220
FAX：0790-75-3599
e-mail：ha-machizukurusuishin-kk@city.shiso.lg.jp



波賀生活圏の拠点づくり検討委員会便り 第2号

9月27日、「第2回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会」を開催し、第1回で意見が出た「波賀町の魅力」や「波賀町をより魅力ある地域にするための課題」をもとに、「買い物・交通」、「子育て・教育」、「生きがい・趣味」、「スポーツ」の4つの区分に分けて、生活の利便性の向上・賑わいの創出につながる方策と拠点について話し合いました。検討委員会での主な意見は以下のとおりです。



買い物・交通

- ・旧Aコープ波賀店前で amane cafe がウイークデーマーケットを毎月開催しているのを利用してもらいたい。
- ・波賀流通元氣プロジェクトでも旧Aコープの活用を議論している。
- ・遊び場とセットになった買い物施設がほしい。
- ・高齢者にネットショッピングの方を教えてあげられたら生きがいにもつながる。
- ・市民センター波賀を改修し、おかず作り提供できればと思う。

スポーツ

- ・子どもだけでなく大人も参加できる仕組みが大切である。
- ・カーン大会に参加する選手が地域の行事にも参加できる仕組みができないか。
- ・ウォーキングが盛んにできるまちとして推進していきたい。

子育て・教育

- ・メイグル福祉センターを波賀幼稚園にして安賀を教育ゾーンとしてはどうか。
- ・メイグル福祉センターでは園庭が確保できるか不安で今の場所のままがよい。
- ・部活動で他校と連携している場合、スクールバスを活用するなど他校に行く交通手段を確保し学校を残してもらいたい。

生きがい・趣味

- ・市民センター波賀は老朽化が激しいため早急に建て替えを考えてもらいたい。
- ・活性化や健康のためにも色々な趣味をしてももらいたい。
- ・建て替えるなら市民センター波賀は防災の拠点となるようにしてもらいたい。
- ・建て替えるなら市民センター波賀で食料品を販売できるようにならないか。
- ・拠点には車が無くても集まれる仕組みが必要である。

第3回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会は、10月25日(木)午後7時30分から波賀市民局で開催し、「上記4区分の拠点施設の機能や場所」について話し合います。検討委員さんを通じてみなさんのご意見をお聞かせください。

波賀生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

中央市役所企画総務部 地域創生課
電話：0790-63-3066
FAX：0790-63-3060
e-mail：kikaku-kk@city.shiso.lg.jp

波賀市民局まちづくり推進課
電話：0790-75-2220
FAX：0790-75-3599
e-mail：ha-machizukurusuishin-kk@city.shiso.lg.jp



波賀生活圏の拠点づくり検討委員会便り 第3号

10月25日、「第3回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会」を開催し、「買い物・交通」、「子育て・教育」、「生きがい・趣味」の拠点機能と場所について話し合いました。

検討委員会の中では、「買い物・交通」、「生きがい・趣味」の拠点については波賀市民局周辺の上野とし、「教育」の拠点については学校施設が集まっている安賀とする意見が出されました。

【第3回検討委員会でご確認された拠点施設の機能と場所】

～波賀市民局周辺を買い物・交通・生きがい・趣味の拠点に～

- ・波賀市民局は立派な木造の建物であるが、全体が活かされておらず、行政機能以外にも空き部屋を活用して生涯学習機能や図書館機能を一緒にすることで賑わいが出てくるのではないか。
- ・市民センター波賀のホールについては、避難所機能や市民局との連携も考えると市民局に併設した形が望ましい。
- ・波賀市民局の窓口とメイプル福祉センターの福祉窓口業務を一緒にするべきである。
- ・議場を音楽ステージなどに活用することも考えられる。
- ・Aコープ跡地を活用し、行政の支援も受けつつ、神河町のように地域での運営も含めた販売施設が再開できないか。
- ・道の駅みなみ波賀も日常生活品や食料品の販売をしている。Aコープ跡地の活用などで店舗再開があったとしても双方の良さを出し合っていくことが大切である。
- ・交通は大型バスにこだわらず、小型バスでの運行とすることで経費節減し、運行時間を増やすことができないか。また、地域住民の積極的な利用も必要である。

～幼稚園・小学校・中学校周辺を教育の拠点に～

- ・メイプル福祉センターを拠点として習い事教室などを呼ぶことができないか。
- ・部活動の指導者を招聘することが賑わいにつながるのではないか。
- ・波賀中学校は老朽化している。子どもの人数が減っていく中で幼稚園・小学校・中学校かひとつの一貫した施設に集まり連携することで賑わいが生まれるのではないか。

第4回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会は、11月16日（金）午後7時30分から波賀市民局で開催し、「拠点施設の配置」などの詳細について話し合います。検討委員さんを通じてみなさんのご意見をお聞かせください。

■ 波賀生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

中央市役所企画総務部 地域創生課
電話：0790-63-3066
FAX：0790-63-3060
e-mail：kikaku-kk@city.shiso.lg.jp

波賀市民局まちづくり推進課
電話：0790-75-2220
FAX：0790-75-3599
e-mail：ha-machizukurisuishin-kk@city.shiso.lg.jp



波賀生活圏の拠点づくり検討委員会便り 第4号

11月16日、「第4回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会」を開催し、11月13日のメインブル福祉センター・波賀文化創造センター・市民センター波賀の施設見学、また、検討委員会当日の波賀市民局の施設見学をふまえ、施設の老朽化が著しい市民センター波賀を考慮し、「生きがい・趣味」の拠点機能の具体について話し合いました。



波賀市民局の見学



市民センター波賀の見学

検討委員会の中では、「災害時の避難所機能の充実」や「ホールの新たな整備」、「波賀市民局の空き部屋の活用」などの意見が出されました。その他主な意見の概要は以下のとおりです。

～生きがい・趣味の拠点としての市民センター波賀の機能～

- ・市民センター波賀の利用者が不便にならないことが前提である。
- ・災害時の避難所機能の充実が必要であり、それなりの設備が必要である。
- ・ホールの建替えが必要であるがそれ以外の部分は波賀市民局の空き部屋を有効に活用することで代用できるのではないか。
- ・スリージが広く座席が階段式で格納できる独特なホールもよいのではないか。
- ・音響設備の充実が必要である。
- ・10年～20年先を見据え、今ある施設や機能で重複する部分はなくしてもよいのではないか。
- ・過度な施設整備は将来の負担になるので必要最小限にすべきではないか。

第5回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会は、12月17日(月)午後7時30分から波賀市民局で開催し、「市民センター波賀の機能と波賀市民局の活用」の詳細について話し合います。検討委員さんを通じてみなさんのご意見をお聞かせください。

■ 波賀生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

中央市役所企画総務部 地域創生課
電話：0790-63-3066
FAX：0790-63-3060
e-mail：kikaku-kk@city.shiso.lg.jp

波賀市民局まちづくり推進課
電話：0790-75-2220
FAX：0790-75-3599
e-mail：ha-machizukukurisuishin-kk@city.shiso.lg.jp



波賀生活圏の拠点づくり検討委員会便り 第5号

12月17日、「第5回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会」を開催し、「生きがい・趣味」の拠点機能の確認をし、さらに、「子育て・教育」の拠点のあり方についていろいろな可能性も含めて話し合いました。

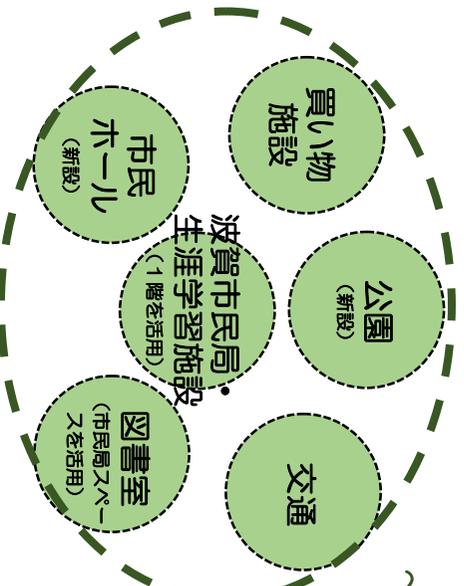
検討委員会の中では、「生きがい・趣味」の拠点機能の確認として、「大きな公園の併設」、「波賀市民局の1階を市民が活動できるスペースとして活用」などの意見が出されました。また、「子育て・教育」の拠点機能の中で、「マイグル福祉センターに学習機能が必要」などの意見が出されました。その他も含めて主な意見の概要は以下のとおりです。



～生きがい・趣味の拠点の確認、子育て・教育の機能～

- ・市民センターに隣接したかたちで大きな遊具を備えた公園があると子どもたちも集まり、拠点の中でいろいろな世代の空間の共有・交流にもつながる。
- ・学校園所の子どもたちも使えるようなホール、子どもたちと大人の両方が使いやすい図書室が望まれる。
- ・波賀市民局の活用については、1階が市民活用スペース、2階が行政機能とする方が市民は利用しやすいのではないか。
- ・波賀地域の市民が使いやすいことはもちろん、町域外からの使用にも対応できる施設が望まれる。
- ・マイグル福祉センターに学習機能があればよい。

波賀市民局周辺の賑わいある拠点の機能



～多世代の交流～

- ・生涯学習機能
- ・公園機能
- ・憩いの場
- ・防災機能
- ・図書室
- ・買い物
- ・交通

第6回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会は、1月29日(火)午後7時30分から波賀市民局で開催し、「子育て・教育の拠点、スポーツの拠点に必要な機能」の詳細について話し合います。検討委員さんを通じてみなさんのご意見をお聞かせください。

■波賀生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

宍粟市役所企画総務部 地域創生課
電話：0790-63-3066
FAX：0790-63-3060
e-mail：kikaku-kk@city.shiso.lg.jp

波賀市民局まちづくり推進課
電話：0790-75-2220
FAX：0790-75-3599
e-mail：ha-machizukurisuishin-kk@city.shiso.lg.jp

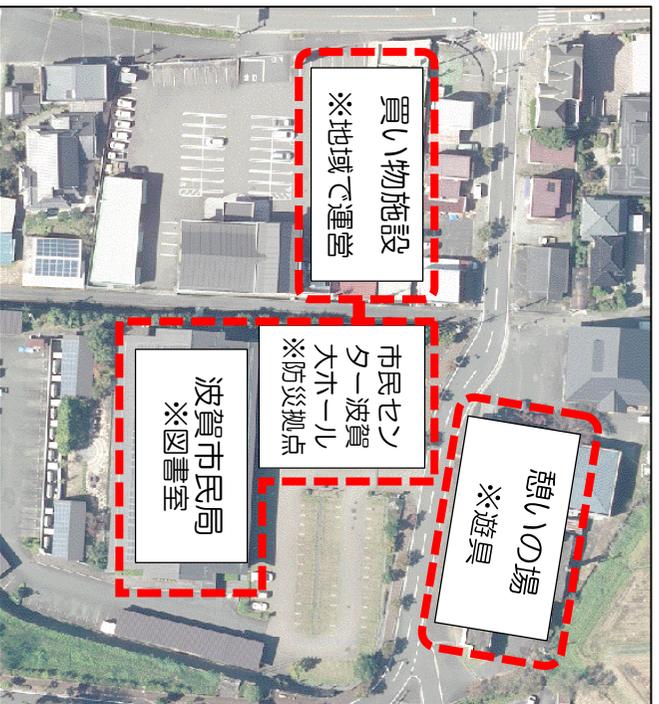


波賀生活圏の拠点づくり検討委員会便り 第6号

1月29日、「第6回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会」を開催し、「生きがい・趣味」「買い物・交通」「子育て・教育」の拠点について検討委員会での考え方を確認しました。また、「スポーツ」の拠点に必要な機能について意見を申し合いました。

「生きがい・趣味」「買い物・交通」の拠点は波賀市民局周辺とし、老朽化が著しい市民センターは建て替え、波賀市民局の空きスペースを活用しつつ、波賀市民局に隣接してホールを新たに整備し、市民センター波賀の跡地は、憩いの場として整備し、「子育て」機能の充実として、子どもたちが遊ぶ遊具の設置を含めた公園の整備を提言することとなりました。また、図書室についても波賀市民局に機能を集めることによる利便性の向上と賑わいの創出を提言することとなりました。買い物施設については、Aコープ跡地の活用について、波賀流通元氣プロジェクトでの検討内容を重視し、地域での運営を検討していくこととしました。イメージや検討委員会での具体的な決定事項は以下のとおりです。

波賀市民局周辺のイメージ



市民センターを市民局に併設

- ① ホールは避難所機能を有すること。
- ② ステージは現行より広くすること。
- ③ 座席は格納できるような独特なものも検討すること。
- ④ 音響設備を充実させること。

波賀市民局の活用

- ① 木造の立派な市民局庁舎の空きスペースを最大限に活用すること。
- ② 1階は市民活用スペースをスペースに考えること。
- ③ 生涯学習機能や図書室機能を一緒にすることを検討すること。

憩いの場の整備

※子育て機能と多世代交流機能を持たせるために…

- ① 大きな遊具のある公園を整備すること。
- ② 世代間の交流ができる空間とすること。

買い物施設の運営

- ① 波賀流通元氣プロジェクトでの議論をベースに、地域での買い物施設の運営を検討していく。

- ② 買い物施設（Aコープ跡地）は、連絡通路等を設け、市民局・ホールと一体性を持たせるよう検討すること。

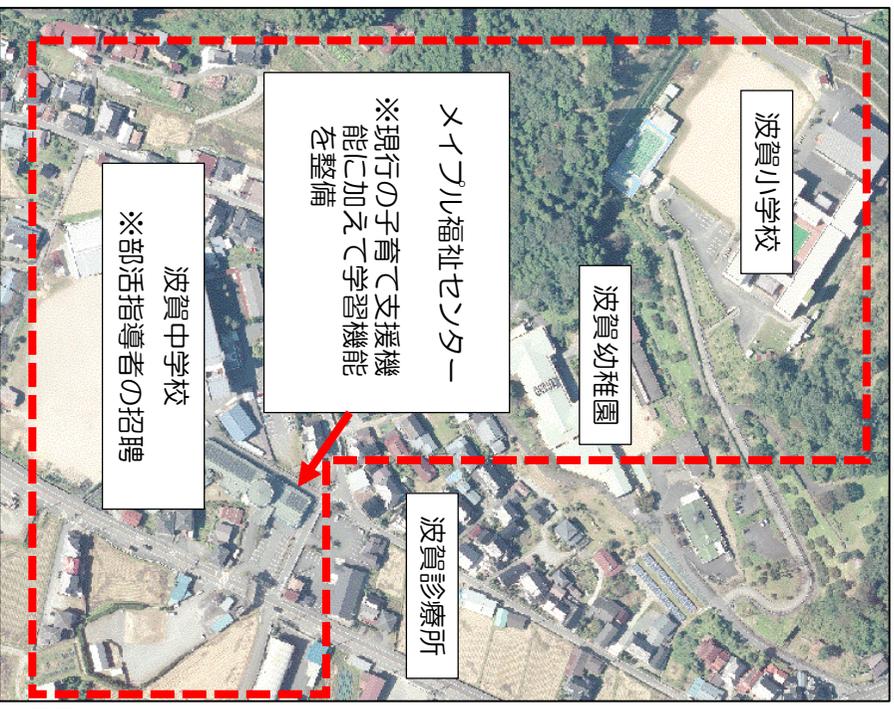
注意） 将来を見据え今ある施設や機能の重複部分をなくすこと。また、過度な投資をせず必要最小限に抑えること。

安賀周辺のイメージ

「教育」については、幼稚園・小学校・中学校が集まる安賀を拠点とし、将来的には各教育施設がひとつになり連携することによる賑わいの創出を提言することとなりました。また、子どもたちの学習の場の確保として、メイグル福祉センターを活用し学習機能をもたせることができないか提言することとなりました。「子育て」については、メイグル福祉センターが木造で雰囲気としてあたたかく、当面の間は現行の機能を維持するものの、将来的にはその機能を波賀市民局に持たせることが望ましいと提言することとなりました。

教育の拠点と子育て機能

- ① 将来的に幼稚園・小学校・中学校がひとつに集まり連携することで賑わいの創出を図ること。
- ② 部活動の専門指導者を招聘すること。
- ③ メイグル福祉センターを活用し子どもたちの学習スペースを確保すること。
- ④ 将来的に、メイグル福祉センター機能を波賀市民局に持たせることで、行政の効率化や賑わいの創出を図ること。



また、スポーツの拠点について設備の強化や、子どもたちの部活動の選択などについても意見交換しました。

～スポーツの拠点の機能～

- ・部活動だけでなくクラブチームでの活動も部活動のひとつとしてもらいたい。子どもたちのスポーツの選択肢を増やすことが大切である。
- ・波賀総合スポーツ公園のテニスコートは利用が少ないので、利用の多いフットサルコートにしてはどうか。また、全天候型ドームを整備し天候を気にせずフットサルなどができるようにしてもらいたい。
- ・波賀B&G海洋センター体育館に空調設備（エアコン）を整備してもらいたい。
- ・有賀をスポーツの拠点とし、市外からの利用が多いメイグルスタジアムをそのまま維持していくことも大切である。市外利用者は、波賀町内に宿泊されることも多い。

第7回波賀生活圏の拠点づくり検討委員会は、3月12日（火）午後7時30分から波賀市民局で開催し、検討委員会としての「波賀生活圏の拠点づくりの考え方」をまとめることとしています。

■ 波賀生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

安栗市役所企画総務部 地域創生課 波賀市民局まちづくり推進課
電話：0790-63-3066 電話：0790-75-2220
FAX：0790-63-3060 FAX：0790-75-3599
e-mail：kikaku-kk@city.shiso.lg.jp e-mail：ha-machizukurusuishin-kk@city.shiso.lg.jp

